4-095-498-**03** (1)

ワイヤレス
液晶カラーテレビ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

KLV-15WS1 Hi-Bit WIRELESS

目次

見る

調整する／設定する

接続と準備

他機との接続

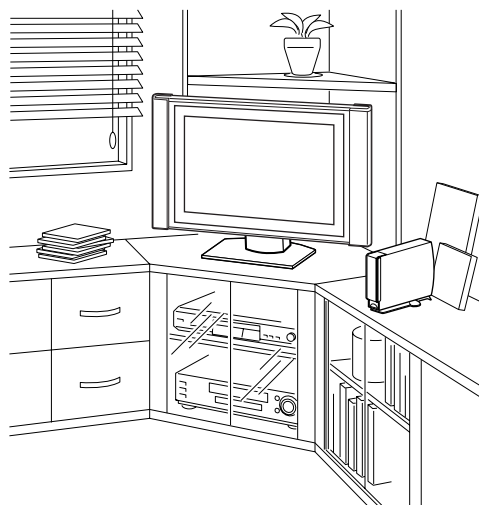
その他

このテレビの楽しみかた

リビングからダイニングへ

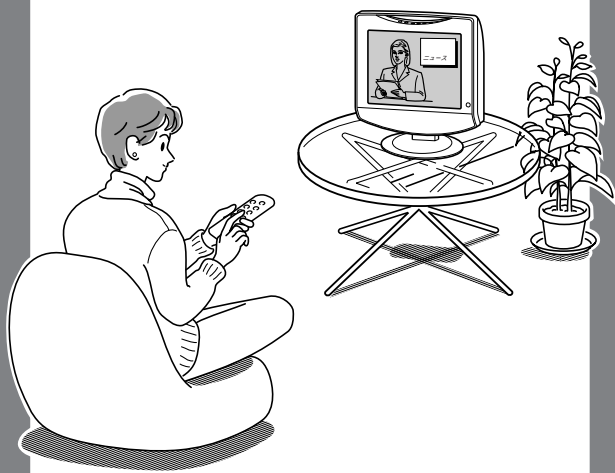
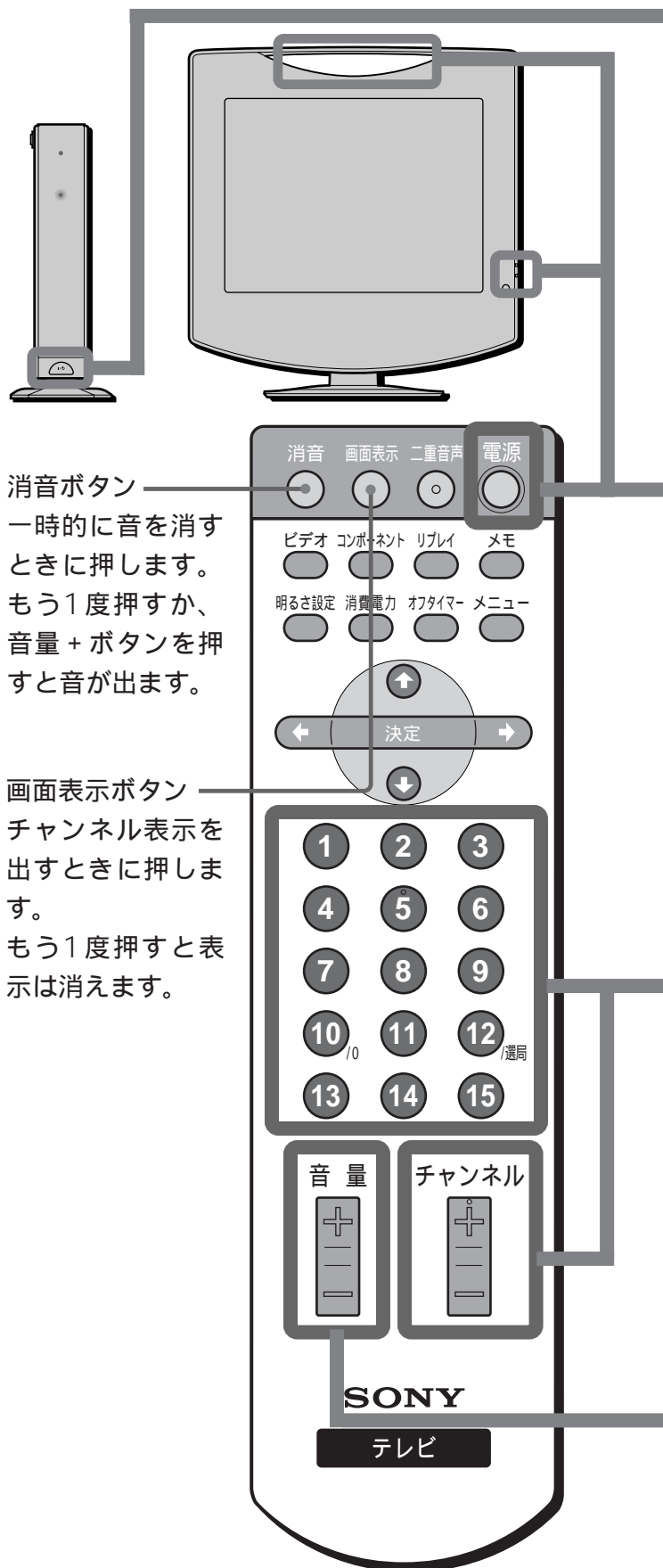
たくさんのケーブル類を引き回したくないダイニングや、テレビアンテナのない書斎や寝室などに自由に持ち運んで、電源ケーブルの接続だけでテレビやDVDプレーヤーなどを見ることができます。

もちろんリビングで他の機器とつないで、そのまま書斎や、寝室へも

リビングで他のテレビにつながれたデジタルチューナーやDVDプレーヤーなどを本機のメディアレシーバーにもつなげます。ディスプレイユニットを持ち運んで他の部屋でも楽しめます。

ご注意

ディスプレイユニットを持ち運んで、置く位置を変えたときは、「ワイヤレス（無線）通信状態を確認する」（☞29ページ）をご覧ください。

見る

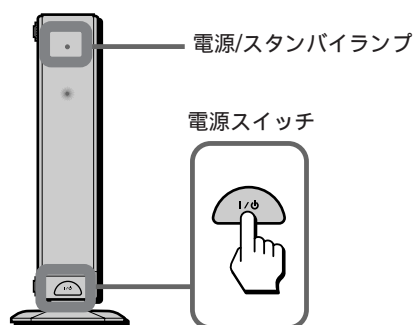
ここでは、通常のテレビをはじめ、ビデオやDVDなどテレビにつないだ機器の映像を見るときの操作を説明しています。
映像に合った画質/音質に設定したり、節電しながら見たりするなど、多彩な機能の操作も説明しています。

テレビを見る

消音ボタン
一時的に音を消すときに押します。
もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出ます。

画面表示ボタン
チャンネル表示を出すときに押します。
もう1度押すと表示は消えます。

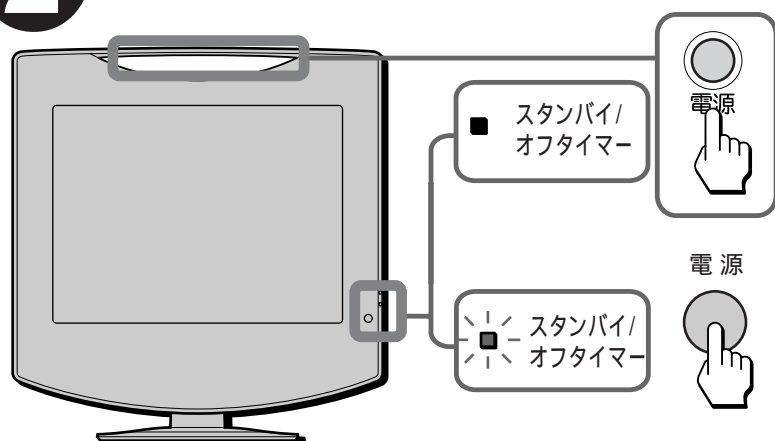
ちょっと一言

- スタンバイ/オフタイマーランプが点灯しているときは、リモコンのチャンネル数字ボタンやチャンネル＋/－ボタンを押すと自動的に電源も入ります（チャンネルポン機能）。
- 省電力のため、放送が終了して（または放送のないチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「まもなく電源が切れます」と表示されて自動的にスタンバイモードになります。
- メディアレシーバーとディスプレイユニットの間の通信が10分間できず、ディスプレイユニットに映像が映っていないときは自動的にスタンバイモードになります。

1 メディアレシーバーの電源を入れる。

メディアレシーバー上部の電源/スタンバイランプが緑色に点灯します。

2 ディスプレイユニットの電源を入れる。

電源

電 源

スタンバイ/オフタイマーランプが消えているときは

テレビ本体上面の電源スイッチを押す。

スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときは

リモコンの電源ボタンを押す。

ご注意

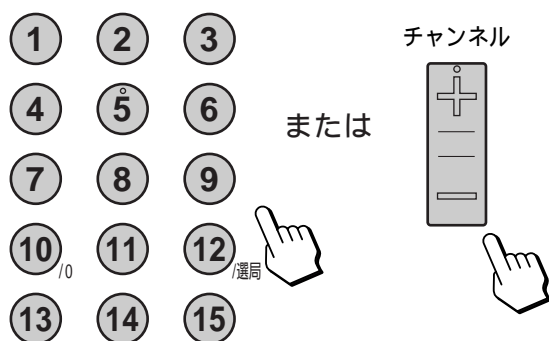
ワイヤレス通信の接続確認のため、電源ボタンを押してから映像が映しだされるまでに約15秒かかります。

3 チャンネル数字ボタンでチャンネルを選ぶ。

チャンネル＋/－ボタンでもチャンネルを選べます。

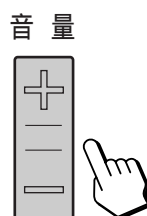
1 2 3
4 5 6
7 8 9
10/0 11 12/選局
13 14 15

または

チャンネル

4 音量＋/－ボタンで音量を調節する。

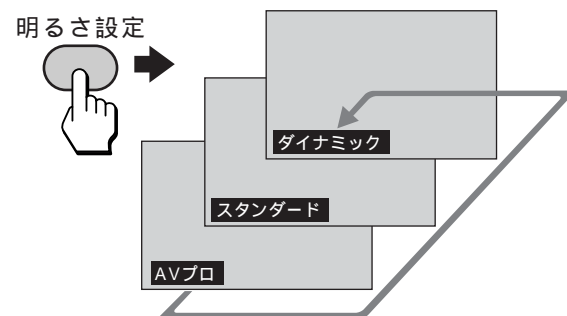
ちょっと一言

音量表示の上にある数値も調節の目安になります。

音 量

部屋の明るさにあった映像を選ぶ［明るさ設定ボタン］

明るさ設定ボタンを押すだけで、映像の種類や部屋の明るさに合った映像を選べます。また、「AVプロ」を選ぶと、より細かく画質を調整できます（☞15ページ）。
明るさ設定は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに別々に設定できます。
ご家庭で通常ご覧になるときは、「スタンダード」を選ぶことをおすすめします。

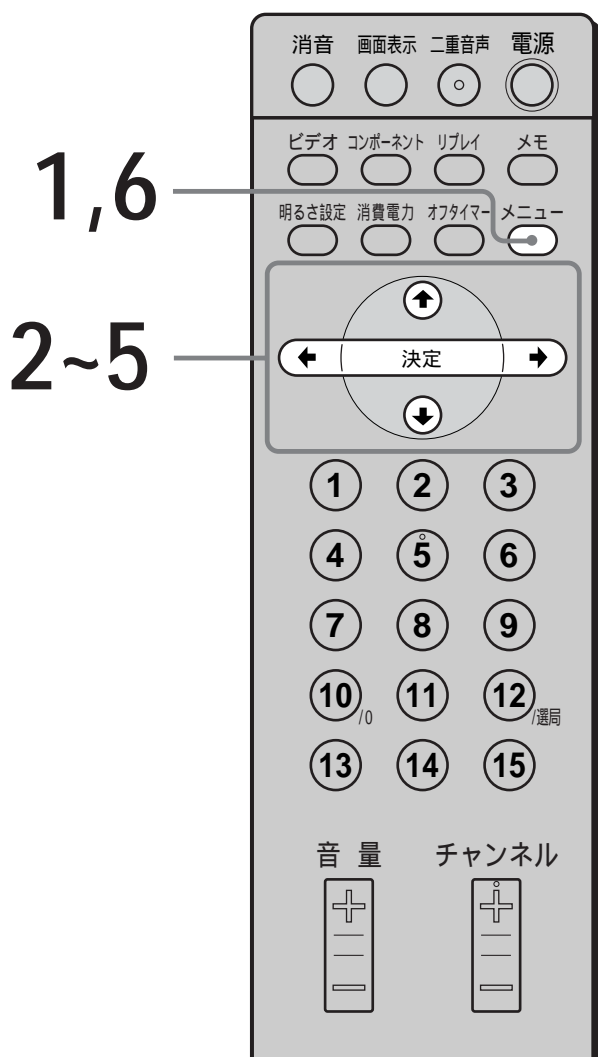
明るさ設定ボタンをくり返し押す。

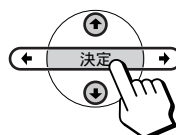
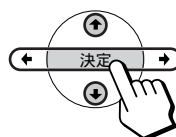
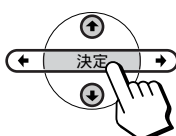
1回押すと、現在の明るさ設定が表示されます。その後、押すたびに、次のように切り換わります。

ダイナミック
映像の輪郭とコントラストを最大限に上げたメリハリの非常に強い映像になります。

スタンダード
ご家庭の様々な使用環境に適した、コントラスト感のある映像になります。

AV**プロ**
お好みの画質を自由に設定できます（☞15ページ）。

サラウンドを楽しむ

「(画質/音質)」メニューの「サラウンド」で映画やゲームに適した音質を選べます。
「サラウンド」は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに別々に設定できます。

1 **メニューボタンを押す。**

2 **/で「(画質/音質)」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **/で「音質調整」を選び、決定ボタンを押す。**

4 **/で「サラウンド」を選び、決定ボタンを押す。**

5 **/で「SRS WOW」を選び、決定ボタンを押す。**

6 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

次のページにつづく

「SRS WOW」*

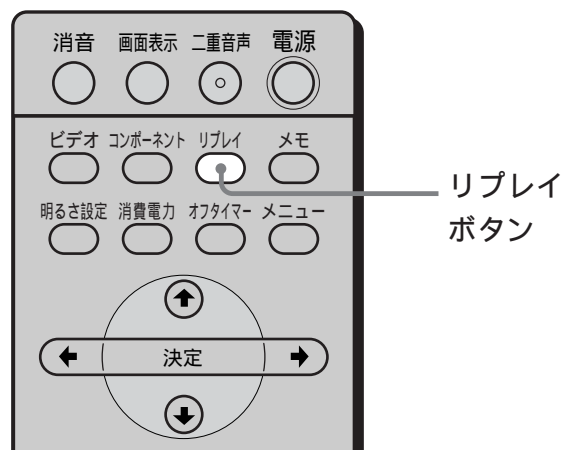
充分な低音とクリアな高音により豊かな臨場感が得られ、特に映画やゲームを迫力ある音で楽しめます。

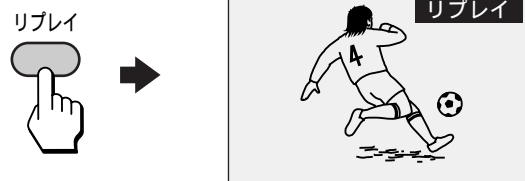
* 「SRS WOW」は米国SRS Labs社が独自に開発した最新技術を使うことにより、身の回りの多種多様な音響製品の音質を飛躍的に向上させます。
WOW, SRSと（●）記号はSRS Labs, Inc.の商標です。SRS WOW技術はSRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

ご注意

- ヘッドホンで聴くときは、SRS WOWは働きません。
- モノラル音声のときは、SRS WOWの効果が充分に得られないことがあります。

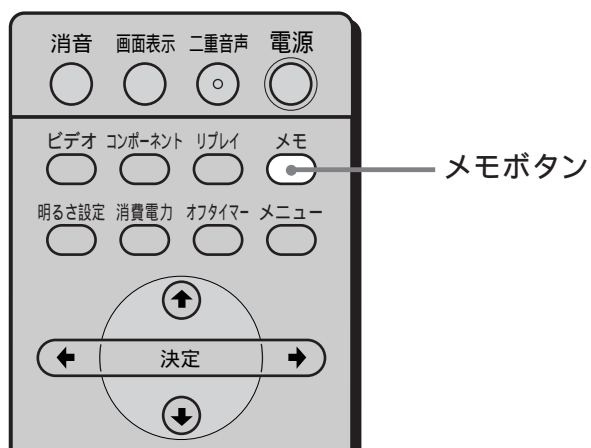
見逃したシーンをさかのぼって見る［リプレイボタン］

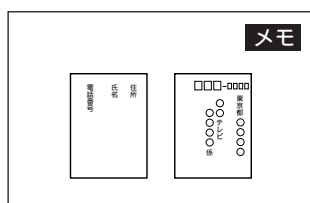
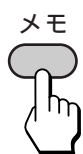
見逃したシーンがあっても、リプレイボタンを押すだけで、約10秒前の映像から見ることができます。

リプレイボタンを押す。

約10秒前から、リプレイボタンを押すまでの映像がくり返し流れます。リプレイをやめたいときは、もう一度リプレイボタンを押すか、チャンネルや入力を切り換えてください。

ご注意

- リプレイをやめた後は、現在放送中、または再生中の映像に戻ります。
- ビデオ2入力端子につないだ機器の映像には、リプレイボタンは働きません。
- 電源を入れたり、チャンネルや入力を切り換えたあと、また、リプレイをやめたあと約10秒間は、リプレイできません。
- リプレイの画面ではメモはできません。

画面をメモする ［メモボタン］

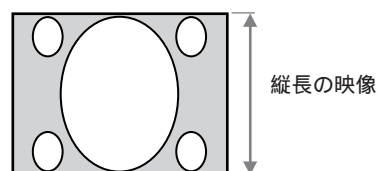
視聴者プレゼントの応募先や料理の材料など、メモしたい場面を静止画像で確認できます。

メモしたい場面で、メモボタンを押す。

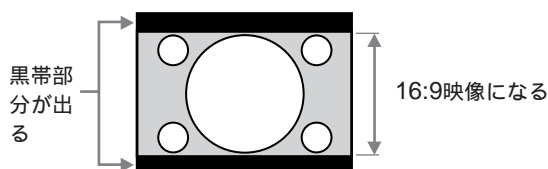
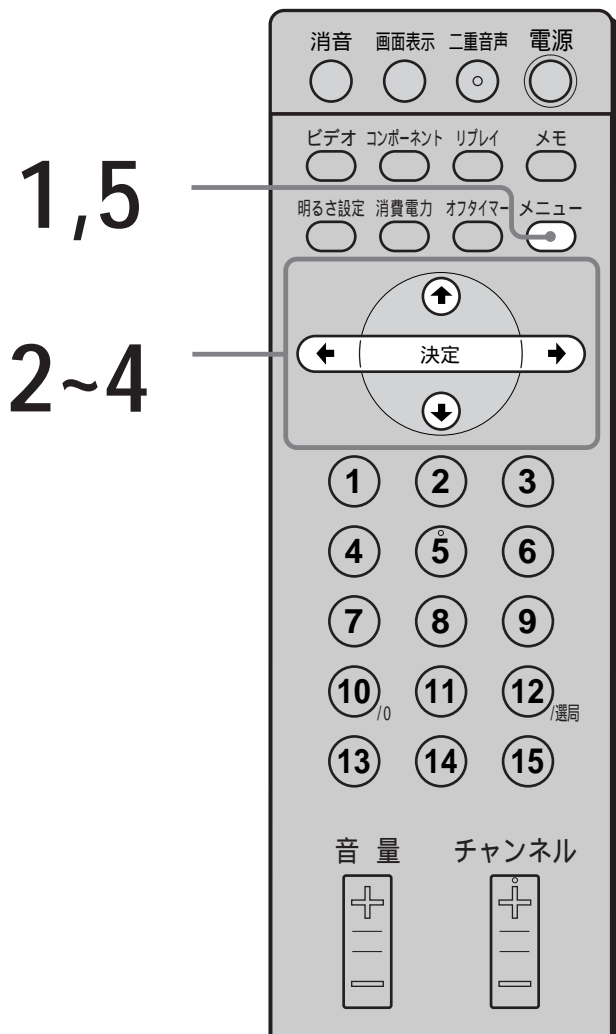
画面が静止します。
もう1度メモボタンを押すか、チャンネルや入力を切り換えると画面が動き出します。

ご注意

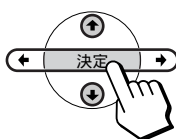
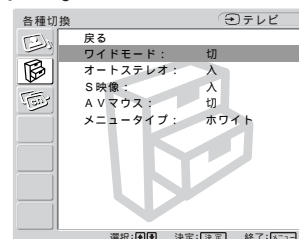
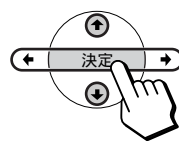
- メモを解除した後は、現在放送中、または再生中の映像に戻ります。
- ビデオ2入力端子につないだ機器の映像には、メモボタンは働きません。
- メモの画面ではリプレイはできません。

横長の画面にする ［ワイドモード］

BSデジタル放送やDVDプレーヤー、ビデオカメラなどの横縦比16:9映像を縦長に記録した映像を、16:9のワイド映像に戻して見ることができます。

ワイドモード「切」のときの映像（16:9**映像を縦長にした映像）**

ワイドモードが働いているときの映像（16:9**映像）**

次のページにつづく

横長の画面にする［ワイドモード］（つづき）

1 メニューボタンを押す。

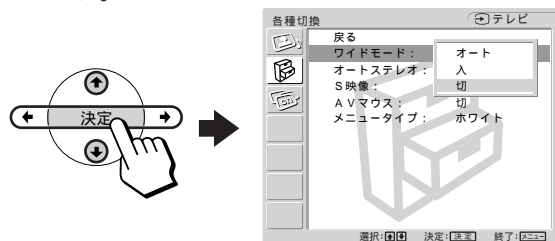
2 ♠/♣で「(各種切換)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ♠/♣で「ワイドモード」を選び、決定ボタンを押す。

4 ♠/♣で「オート」を選び、決定ボタンを押す。

通常は、「オート」（お買い上げ時の設定）にしてください。
横縦比の信号（D1入力端子からの横縦比情報の入ったBSデジタル放送やID-1/S1方式）を、自動判別して縦方向を圧縮した横縦比16:9のワイド画面にし、それ以外の映像はオリジナルそのままに映します。正しく判別されるようにつないでください。

つなぐ機器の映像出力端子の種類	コードの種類
D1映像出力端子があるときは	D映像・音声コードでつなぐ（別売り:VMC-DD20CVなど）
S1映像出力端子があるときは	S映像・音声コードでつなぐ（別売り:YC-810Sなど）
ビデオID-1システム対応の映像出力端子があるときは	映像・音声コードでつなぐ（別売り:VMC-810Sなど）

上記のいずれでもないときは、「オート」で判別されずに、縦長の画像のまま表示されることがあります。その場合は、「ワイドモード：入」を選んでワイド画面にしてください。

「入」を選ぶと
すべての映像を縦方向に圧縮します。

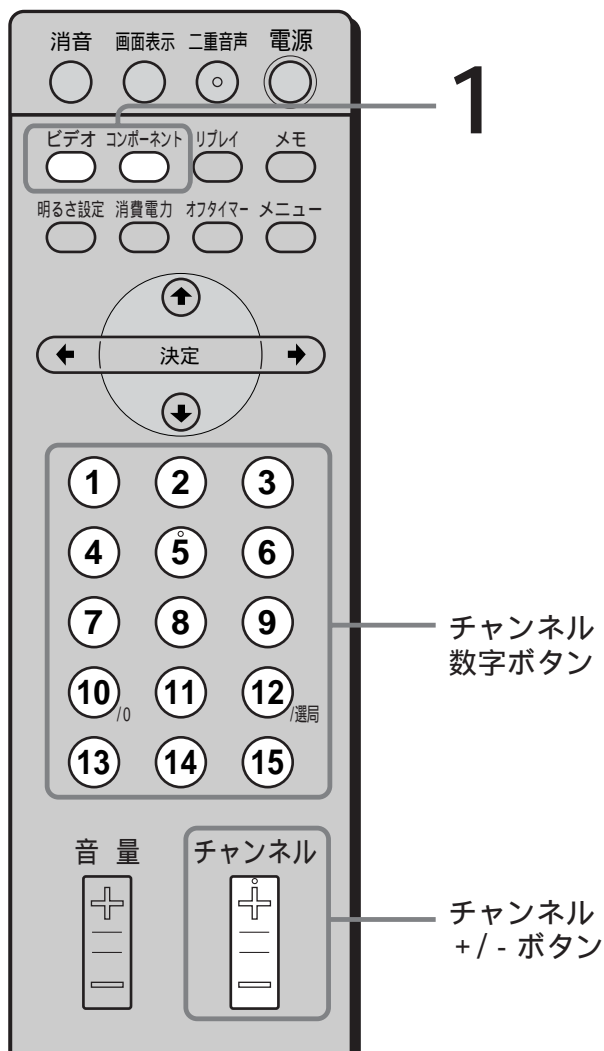
「切」を選ぶと
すべての映像をオリジナルそのままに映します。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ワイドモードについてのご注意

- 通常のテレビ放送やBS放送など横縦比4:3の映像で、ワイドモードを「入」にすると、縦方向に圧縮されて不自然に見えます。
- ワイドモード機能を、喫茶店やホテル等で、営利目的、または公衆に視聴させる目的として使用すると、著作権法で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますのでご注意願います。
- ワイドクリアビジョン放送や上下に黒帯が入っている横長の映画などのワイド画像のときは、「オート」または「切」にしてください。
  「入」を選ぶと、従来から入っていた黒帯の部分まで縦方向に圧縮されて、よりつぶれた映像になるためです。

テレビにつないだ機器の画像を見る

入力を切り換えて、メディアレシーバーにつないだビデオ、DVDプレーヤーやBSデジタルチューナー、デジタルCSチューナー、ディスプレイユニットにつないだテレビゲームなどの画像を見ることができます。接続のしかたについては、☞37～47ページをご覧ください。

次のページにつづく

テレビにつないだ機器の画像を見る（つづき）

1 **入力切換用のボタンを押して、見たい画像を選ぶ。**

各ボタンを押すたびに、それぞれの端子につないだ機器の画像に切り換わります。

押すたびに	以下につないだ機器の画像になります。	画面表示も変わります。
ビデオ	• ビデオ1入力端子 • ビデオ2入力端子	ビデオ1* ↕ ビデオ2*
コンポーネント	• コンポーネント入力端子	コンポーネント（525i）

* S1映像端子につなぎ、「(各種切換)」メニューの「S映像」を「入」にしているときは（☞40ページ）、「Sビデオ1」、「Sビデオ2」と表示されます。

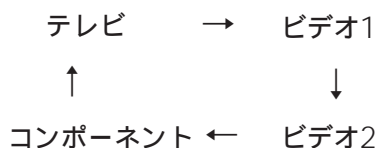
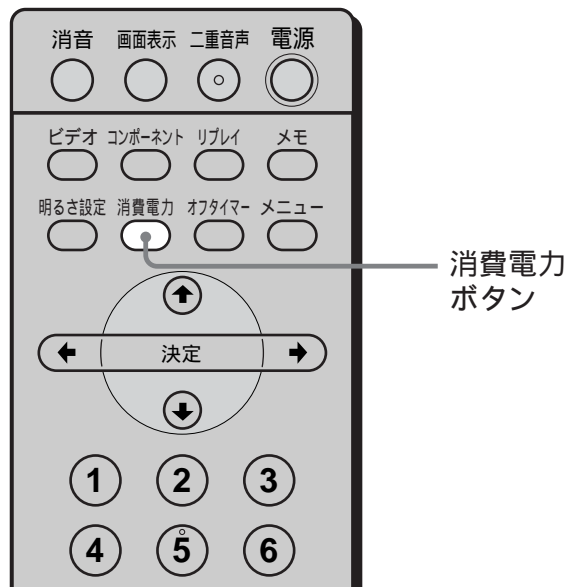
2 **接続している機器を操作する。**

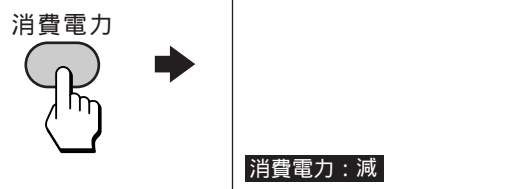
詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ画面に戻すときは

テレビボタン、チャンネル数字ボタンまたはチャンネル＋/ーボタンを押す。

ちょっと一言

ディスプレイユニット上部の入力切換ボタンをくり返し押しても、入力を切り換えられます。

節電しながら見る ［消費電力ボタン］

消費電力ボタンを押す。

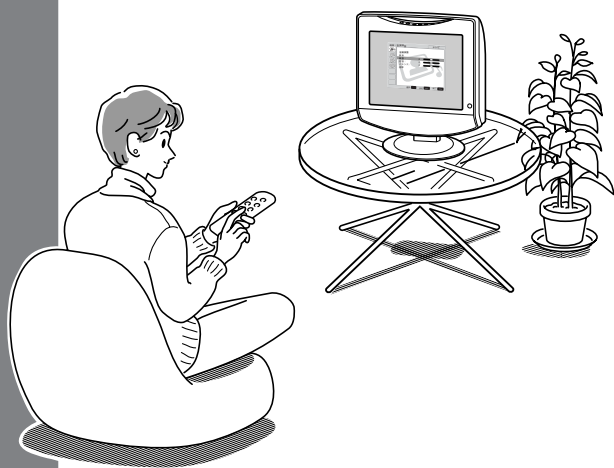
節電中になります。節電中は画面が暗くなります。

節電をやめるには

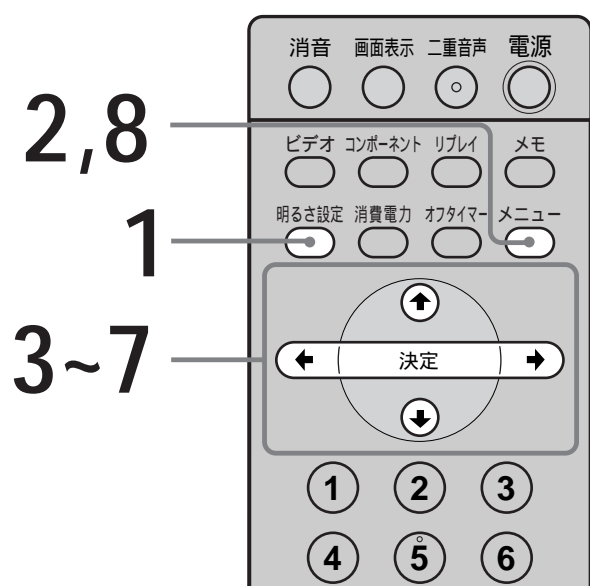
もう1度、消費電力ボタンを押す。
「消費電力:標準」と表示されます。

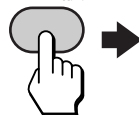
ちょっと一言

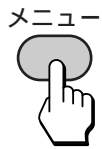
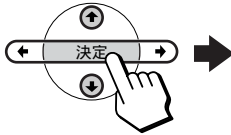
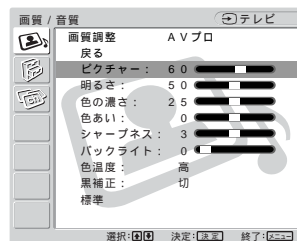
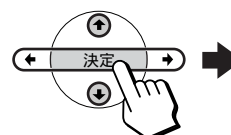
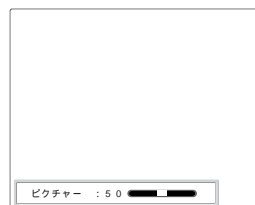
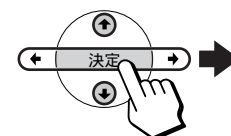
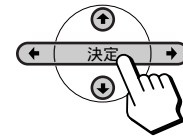
「消費電力:減」のときに電源を切ると、次に電源を入れたときも「消費電力:減」のままになります。

調整する/設定する

ここでは、画質や音質などを調整する応用的な操作を説明しています。

より細かく画質を調整する

明るさ設定ボタンで「AVプロ」を選ぶと、画質をより細かく調整できます。
画質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます。

1 明るさ設定ボタンをくり返し押して、「AVプロ」を選ぶ。

ご注意
「ダイナミック」と「スタンダード」（☞8ページ）では、画質調整できません。

より細かく画質を調整する（つづき）

2 メニューボタンを押す。

3 ↑/↓で「（画質/音質）」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で「画質調整」を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓で調整したい項目を選び、決定ボタンを押す。

6 ↑/↓/←/→で調整し、決定ボタンを押す。

調整できる項目

項目	↓/←を押すと	↑/→を押すと
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる
明るさ	暗くなる	明るくなる
色の濃さ	薄くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる
色あいの微調整ができます。		
シャープネス	映像の輪郭が柔らかくなる	映像の輪郭がくっきりする
バックライト	画面が暗くなる	画面が明るくなる

ちょっと一言
調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

ご注意
コンポーネント入力端子の色あいは調整できません。

設定を選んで調整できる項目

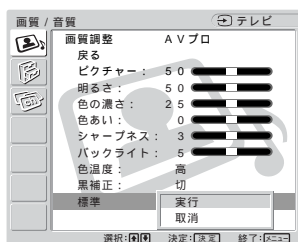
項目	説明	選べる設定
色温度	「高」から「低」にしていくと赤みがかった暖かみのある色調になる。	高/中/低
黒補正	黒を強調してコントラストを強くする。	入/切

ご注意
コンポーネント入力端子の黒補正は調整できません。

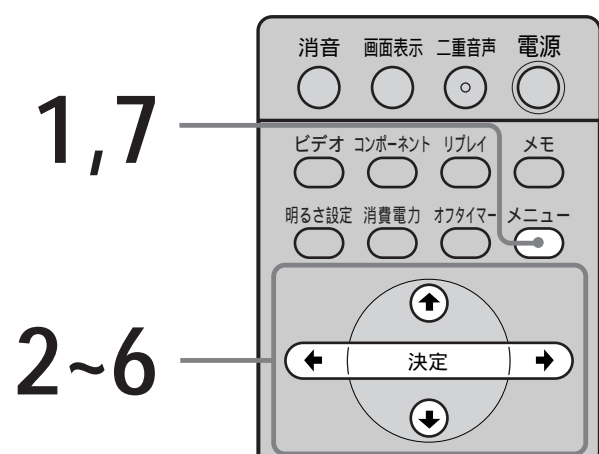
7 他の項目を調整するときは、手順5と6をくり返す。

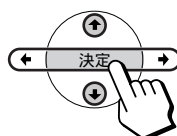
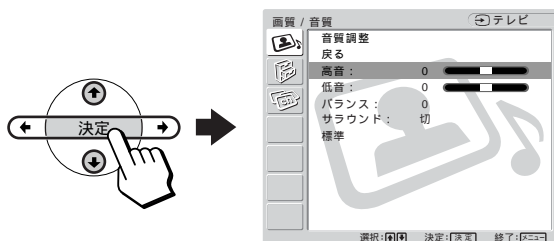
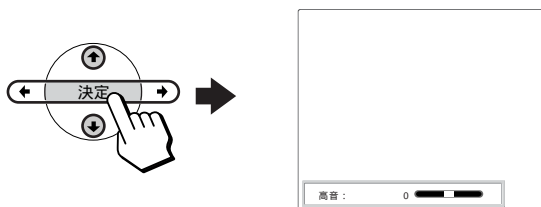
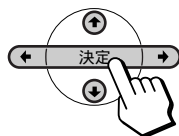
8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

お買い上げ時の状態に戻すには

1 **手順5で「標準」を選び、決定ボタンを押す。**

2 **「実行」が選ばれていることを確認して、決定ボタンを押す。**

音質を調整する

音質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます。
ここでは、「サラウンド」（☞9ページ）以外の音質「バランス」、「低音」、「高音」について説明します。

1 メニューボタンを押す。

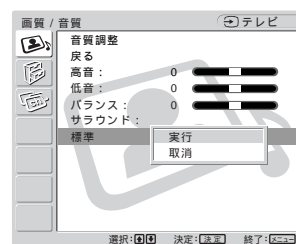
2 ↑/↓で「(画質/音質)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「音質調整」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で調整したい項目を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓/←/→で調整し、決定ボタンを押す。

項目	↓/←を押すと	↑/→を押すと
高音	弱くなる	強くなる
低音	弱くなる	強くなる
バランス	左側の音が強くなる	右側の音が強くなる
サラウンド	☞9ページをご覧ください。	

ちょっと一言
調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

6 他の項目を調整するときは、手順4と5をくり返す。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

お買い上げ時の状態に戻すには

1 手順4で「標準」を選び、決定ボタンを押す。

2 「実行」が選ばれていることを確認して、決定ボタンを押す。

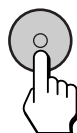
3 メニューボタンを押して、メニューを消す。

音声を切り換える
[二重音声ボタン]

二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選べます。

二重音声ボタン

二重音声ボタンをくり返し押す。
押すたびに下表のように切り換わります。

二重音声

画面表示	テレビの左スピーカーの音声	テレビの右スピーカーの音声
主	両方とも主音声	
副	両方とも副音声	
主/副	主音声	副音声

左側（主音声）

右側（副音声）

Good evening.

例:「主/副」を選んだとき

通常のテレビ（VHF/UHF）のステレオ放送で雑音が気になるときは

音声をモノラルにして、チャンネルごとに雑音を軽減できます。

1 **雑音の多いチャンネルを映した状態で、メニューボタンを押して、メニューを出す。**

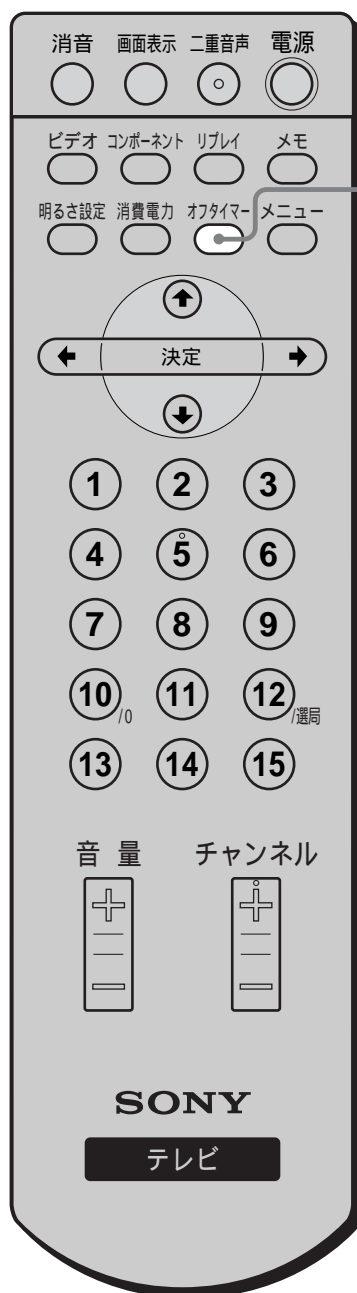
2 **↑/↓で「（各種切換）」を選び、決定ボタンを押す。**

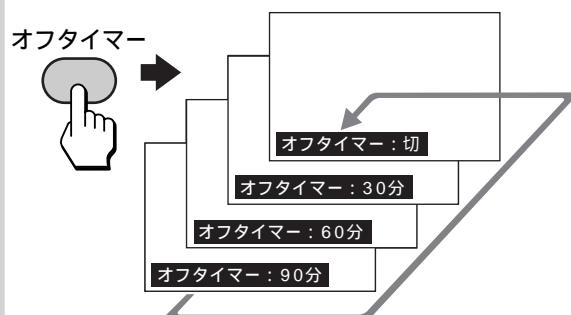
3 **「オートステレオ」を選び、決定ボタンを押す。**

4 **↑/↓で「切」にして、決定ボタンを押す。**

5 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

自動で電源を切る
[オフタイマーボタン]

テレビをつけたまま寝てしまっても、設定した時間（30分、60分または90分）が過ぎると、自動的に電源が切れます。

オフタイマーボタンをくり返し押す。

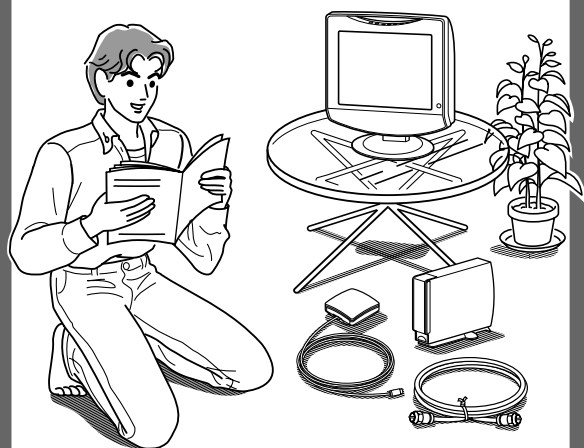
押すたびに、次のように時間が変わります。また、ディスプレイユニットのスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯します。

オフタイマーを途中でやめるには

オフタイマーボタンをくり返し押して、「オフタイマー:切」を選ぶ。

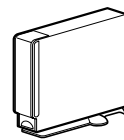
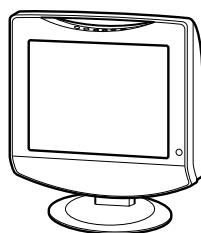
ちょっと一言

- オフタイマーが働いているときに、オフタイマーボタンを押すと、もう一度時間を設定できます。
- 電源を入れ直したときは、「オフタイマー:切」に戻ります。
- 電源が切れる1分前になると、「オフタイマーによりまもなく電源が切れます」と表示されます。メニューなどを開いているときは、「オフタイマーによりまもなく電源が切れます」と表示されないこともあります。

接続と準備

ここでは、テレビアンテナのつなぎかた、およびチャンネル設定を説明しています。
手順1～7（☞21～34ページ）まで済ませれば、テレビを見ることができます。
他の機器をつないでお使いになるときは、「他機との接続」（☞37～47ページ）をご覧ください。

手順1: セットと付属品を確かめる

箱を開けたら、セットと付属品がそろっているか確かめてください。

セット

壁にかけるときは

本機を壁にかけて使用するときは、別売りの壁取付金具をご使用ください。
- 液晶テレビ用壁取付金具（別売り）
SU-W110

ディスプレイユニットを運ぶときは

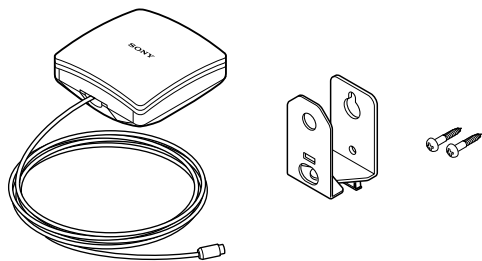
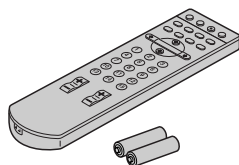
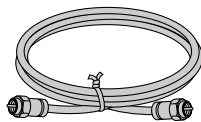
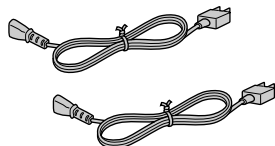
- ディスプレイユニットを手で運ぶときは、取っ手を持ってください。取っ手はしなやかな素材を使って強度を確保しています。
- 取っ手を持ってふり回さないでください。また、取っ手を利用して壁にかけたり、ひもで吊るすような使い方はしないでください。
- リアカバーやスタンドを持って運ばないでください。

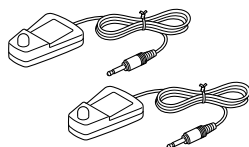
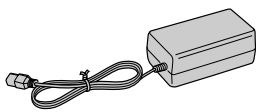
接続と準備

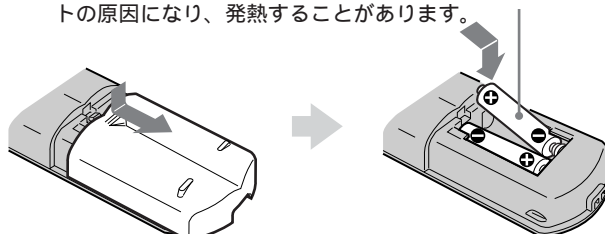
次のページにつづく

手順1:
セットと付属品を確かめる（つづき）

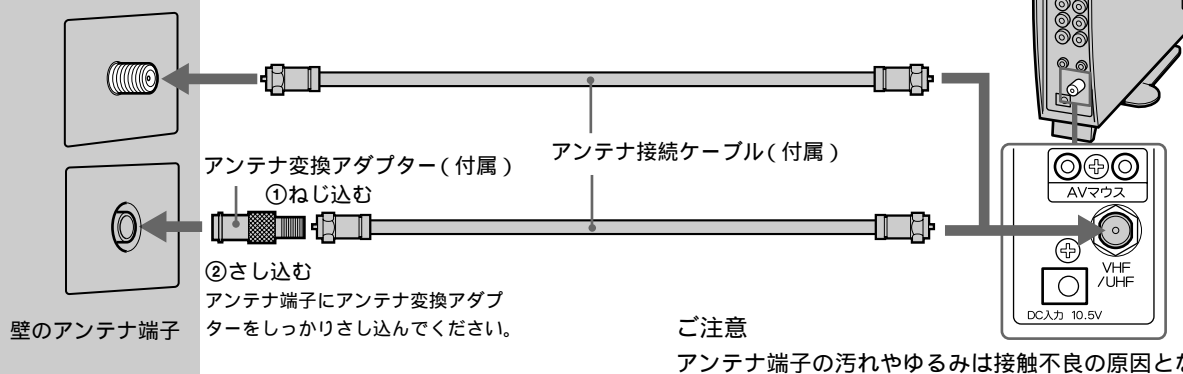
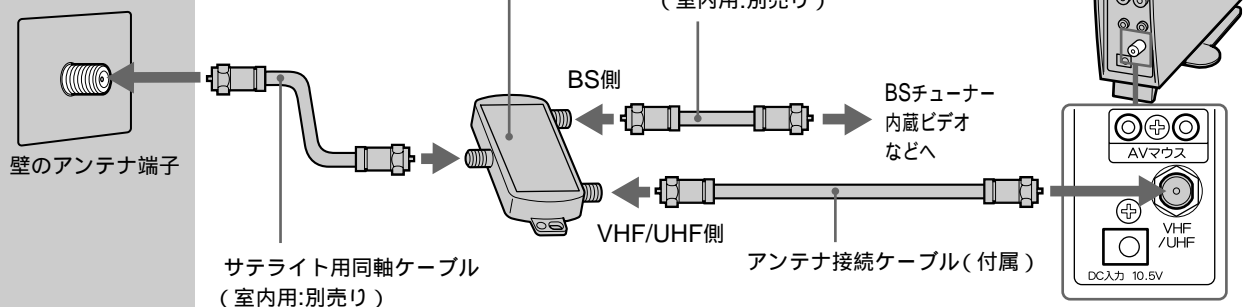
付属品

外部アンテナ、外部アンテナ壁取付金具（1個）、木ネジ（2本）

リモコン（1個）と単4型乾電池（2個）

アンテナ接続ケーブル（1本）

電源コード（2本）

アンテナ変換アダプター（1個）

AVマウス（2個）

ACパワーアダプター（1個）

取扱説明書
安全のために/安全点検チェックリスト
ソニーご相談窓口のご案内
保証書
（各1部）

リモコンに電池を入れるには

手順2:
テレビアンテナをつなぐ

テレビアンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や、使うケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、つないでください。いずれにも当てはまらない場合は、販売店などにご相談ください。

ご注意
アンテナ端子の汚れやゆるみは接触不良の原因となります。

CSデジタル放送を含めた共同受信システムのときは

お住まいのマンションの共同受信システムによって、壁のアンテナ端子への接続のしかたが異なります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に、共同受信システム方式を確認し、その指示に従って、接続および受信方法の設定を行ってください。

きれいな画像をお楽しみいただくために

本機には、多くのデジタル回路による新テクノロジーが搭載されています。このため、安定した画像をお楽しみいただくためにはアンテナの接続状態がとても重要です。右記のようにテレビアンテナの接続と設置を確実に行い、妨害電波を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

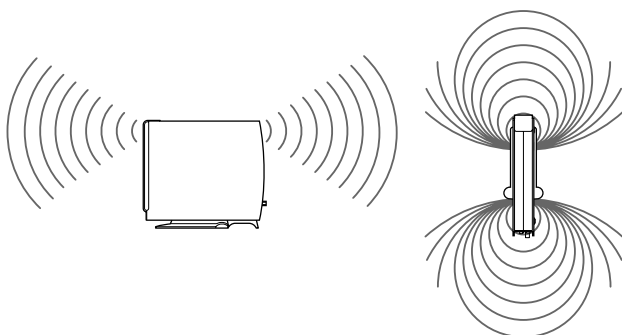
- **メディアレシーバー後面のVHF/UHF端子への接続は、必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。**
- **アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。**
- **室内アンテナ、フィーダー線は特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。**

ご注意
フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。フィーダー線をご使用になる場合は、メディアレシーバーからできるだけ離してください。

手順3:
メディアレシーバーを設置する

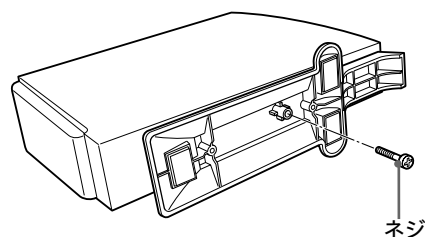
メディアレシーバー前面と後面部からはメディアレシーバー内蔵アンテナによってワイヤレス信号を送受信しています。メディアレシーバーとディスプレイユニットの設置場所によっては、通信状態が安定しなかったり、画像の乱れの原因になることがあります。よりよい通信状態を保つためには、通信の劣化の原因になる障害物を避けて設置してください。詳しくは☞30ページをご覧ください。

メディアレシーバー内蔵アンテナによる
ワイヤレス通信のイメージ

メディアレシーバー側面　　**メディアレシーバー上面**

ご注意

- メディアレシーバー側面中央付近の延長上は通信レベルが低くなるところがあります。
- メディアレシーバーの近くから金属製のものや水の入った水槽、金属粉を蒸着させたCD、DVDソフトを離してください。

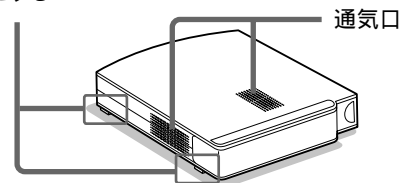
メディアレシーバーは、設置場所に合わせて縦置きにも横置きにも設置できます。
スタンドをはずすときは、ドライバーを使って底面のネジをはずしてください。

メディアレシーバースタンド底面

ご注意

付属のネジ以外は使わないでください。また、ネジやスタンドをはずしたときは、なくさないように保管してください。

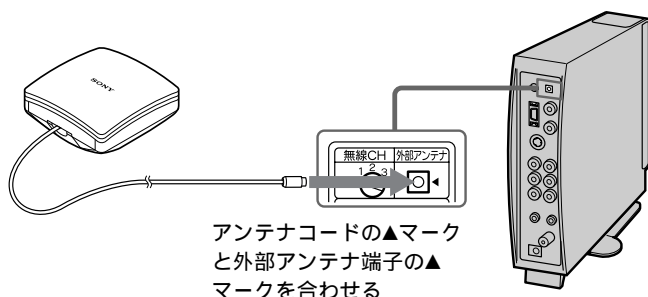
横置きにするときは

メディアレシーバーのスタンドを取りはずして、横置きにできます。

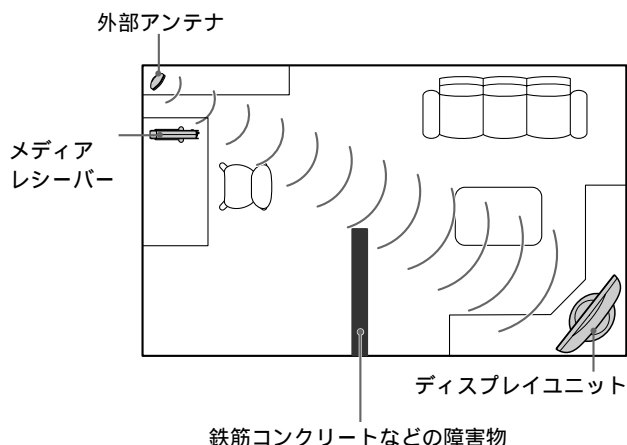
足がついている側を
下にする

ご注意

- メディアレシーバーを他の機器に積み重ねたり、他の機器をメディアレシーバーの上に載せたりしないでください。
- 通気口を塞がないように設置してください。

手順4:外部アンテナを設置する

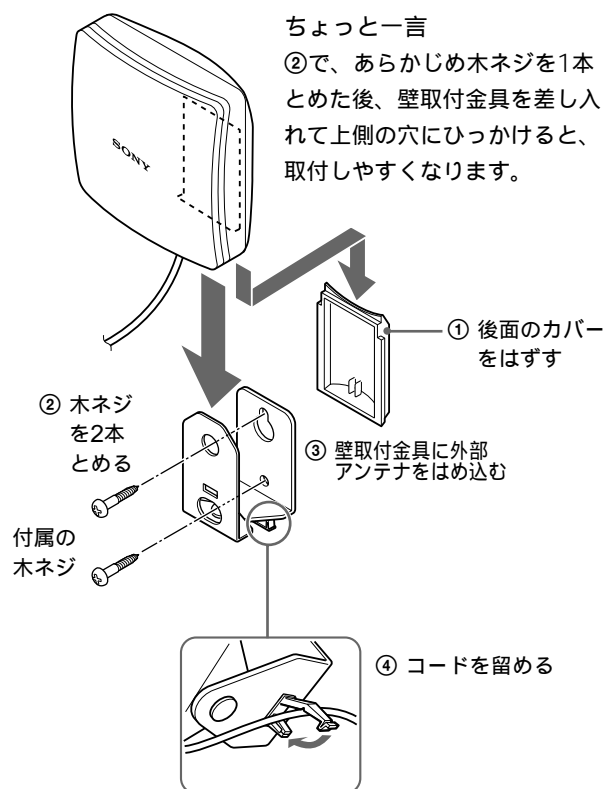
メディアレシーバーとディスプレイユニットを離れたところに置くときや、障害物を隔てて置くときは、外部アンテナを使って方向性を定めたり、障害物を避けることにより、通信レベルをあげることができます。同じ部屋にメディアレシーバーとディスプレイユニットを置くときなど、通信状態が安定している場合は外部アンテナをつなぐ必要はありません。その場合は手順5に進んでください。

ご注意

- 外部アンテナをつなぐときは、メディアレシーバーの電源を切ってください。
- 外部アンテナをメディアレシーバーにつなぐと、メディアレシーバー後面からのワイヤレス信号は送受信できません。
- 外部アンテナの周囲には、金属製のもの、金属粉の蒸着したCD、DVDソフトや水の入った水槽などを置かないでください。

ディスプレイユニットを置きたい位置に向けて外部アンテナを設置します。

壁取付金具を使うときは

外部アンテナを壁にかけて使用するときは、付属の壁取付金具をしっかり取り付けてください。

ちょっと一言

②で、あらかじめ木ネジを1本とめた後、壁取付金具を差し入れて上側の穴にひっかけると、取付しやすくなります。

ご注意

木の柱、壁には付属の木ネジを使ってください。石膏ボードやコンクリートなどの壁には付属の木ネジが使えないため、市販のネジなどを使って取り付けてください。

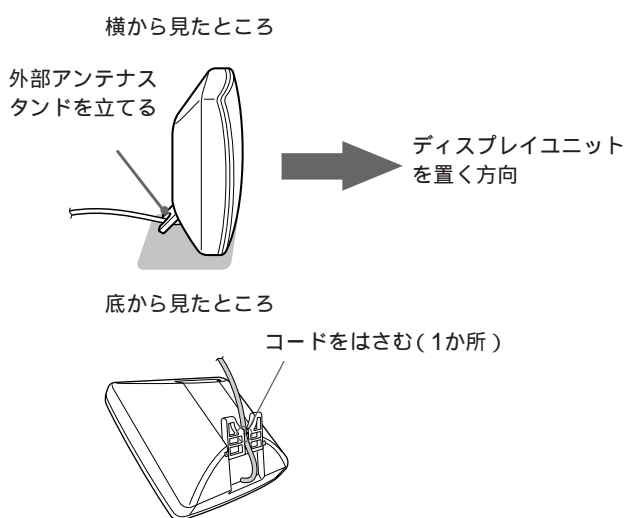
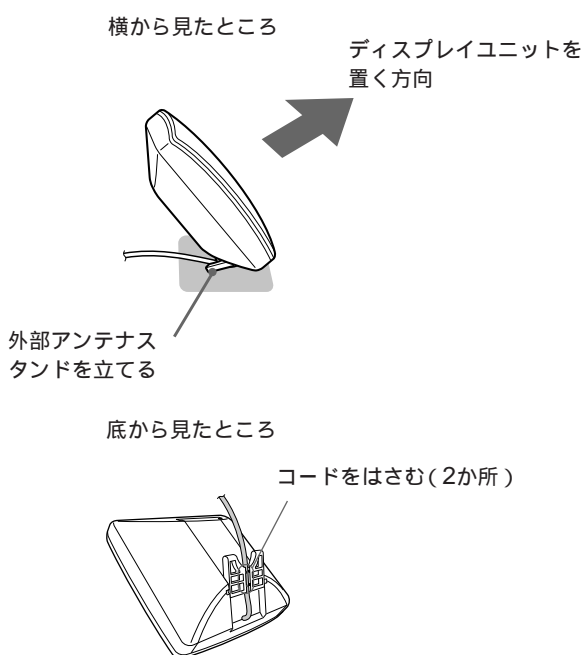
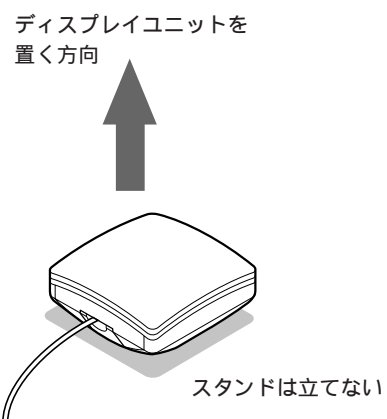
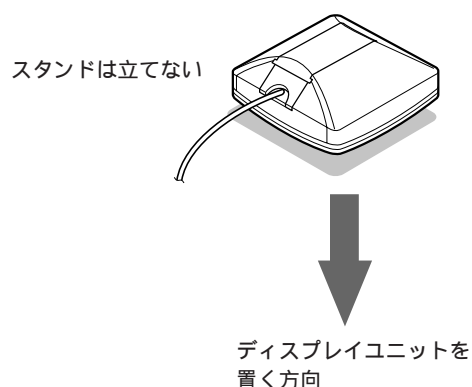
接続と準備

次のページにつづく

手順4:
外部アンテナを設置する（つづき）

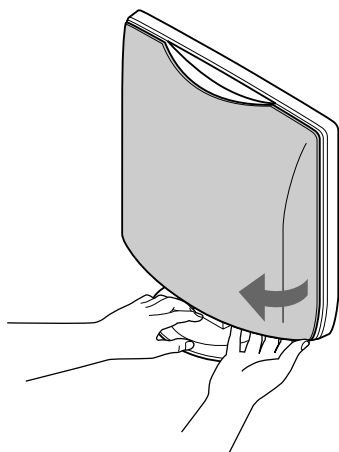
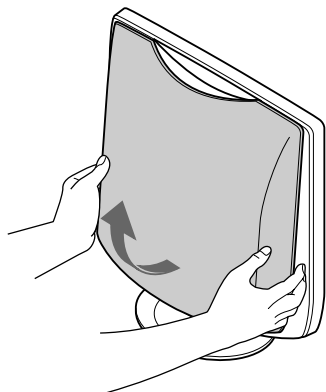
外部アンテナを直接置いて使うときは

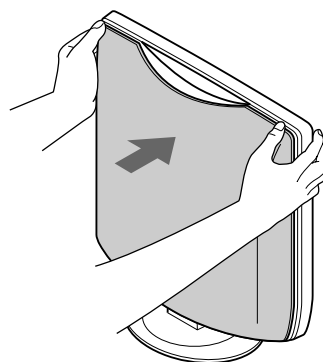
外部アンテナスタンドを使って角度を調整してください。外部アンテナスタンドを立てる角度は3段階変えられます。

ディスプレイユニットを置く方向が外部アンテナに対して水平方向のとき

ディスプレイユニットを置く方向が外部アンテナに対して斜め上方のとき

ディスプレイユニットを置く方向が外部アンテナに対して真上のとき

ディスプレイユニットを置く方向が外部アンテナに対して下方向のとき

手順5:電源コードをつなぐ

必ず付属のACパワーアダプターと電源コードをご使用ください。
電源コードやビデオ2入力端子にテレビゲームなどの機器を接続するときは、ディスプレイユニット後面のカバーをはずしてください。(接続が終わったら、カバーを取り付けてください。)

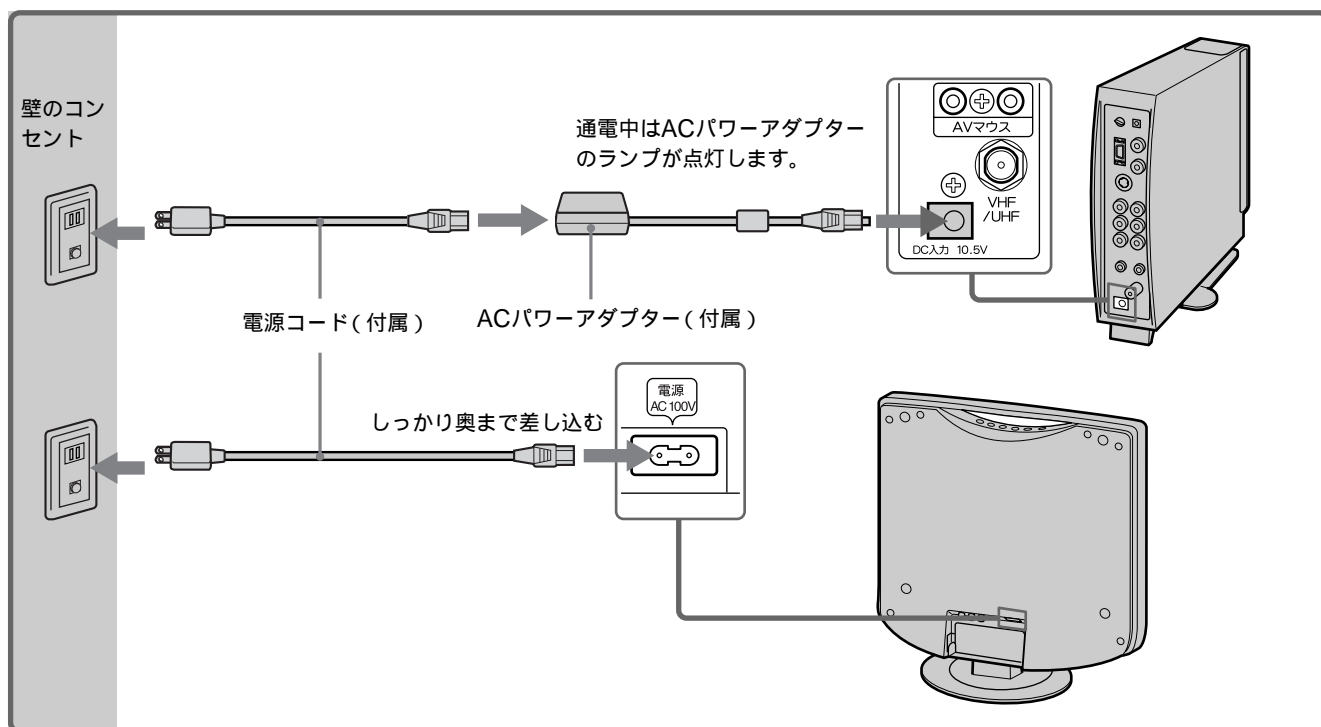
カバーのはずしかた

① スタンドをしっかりと抑えながら、後面のカバー右下(または左下)を図のようにつかみ、後ろへ引っ張る。同じように、左下(または右下)もはずす。

② 図のように両手で上へ持ち上げながらはずす。

カバーの取り付けかた

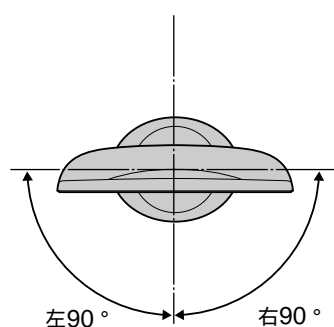
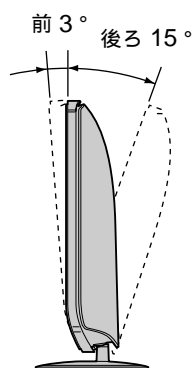
後面のカバーを図のように持ち、カバーの4か所の突起を本体の4か所のゴム穴にあわせて、しっかり押し込む。

ご注意

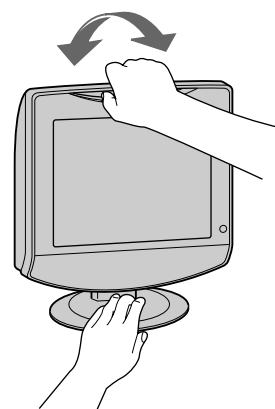
後面のカバーははずれやすいので、ディスプレイユニットを持ち運ぶときはカバーのみを持たないでください。

接続と準備

手順5:
電源コードをつなぐ（つづき）

見やすい角度に調整する

ディスプレイユニットの角度を前後左右に調整できます。

ディスプレイユニット右側面　　**ディスプレイユニット上面**

ご注意

ディスプレイユニットの角度を変えるときはスタンド部分がずれたり、浮いたりしないようしっかりと手でささえて固定させてください。

手順6:
ワイヤレス（無線）通信状態を確認する

電源を入れて、ワイヤレス通信ができることが確認できたら、「手順4:外部アンテナを設置する」で決めた方向にディスプレイユニットを持ち運んでご覧いただけます。

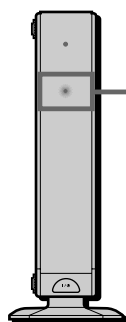
通信レベルを確認する

メディアレシーバーとディスプレイユニットのそれぞれで通信状態のレベルを確認できます。無線レベルが3〜4のときは、良好な通信状態にあります。
通信レベルが低いときや通信状態が安定していないときは、「よりよい通信状態を確保する」（☞30ページ）、「無線レート設定」、「無線チャンネル切り換え」（☞30ページ）をご覧ください。

メディアレシーバー側で通信レベルを確認するには

電源を入れると、無線レベルランプの点滅で、通信レベルを確認することができます。

メディアレシーバー無線レベルランプの状態	ディスプレイユニット無線レベルの数字	通信状態
8秒点灯し、2秒消灯	3〜4	強
4秒点灯し、2秒消灯	2	中
2秒点灯し、2秒消灯	1	弱
2秒点灯し、8秒消灯	0	圏外または不通

メディアレシーバー前面

ちょっと一言
メディアレシーバーを動かしたり、ディスプレイユニットを持ち運んだときは、約1秒後に通信レベルが更新されます。

ディスプレイユニット側で通信レベルを確認するには

1 メディアレシーバーの電源スイッチを押す。

2 ディスプレイユニットの電源スイッチを押す。

3 メニューボタンを押して、メニューを出す。

4 ↑/↓で「ch（テレビ設定）」を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓で「無線レベル」を選び、決定ボタンを押す。

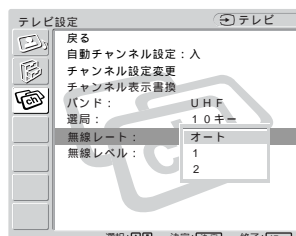
6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

通信距離を延ばしたいときは（無線レート設定）

通信する信号の種類や設置する距離などお使いになる場面に適した無線レートを選べます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「ch（テレビ設定）」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「無線レート」を選び、決定ボタンを押す。

次のページにつづく

手順6:ワイヤレス（無線）通信状態を確認する（つづき）

4 ↑/↓で設定したい項目を選び、決定ボタンを押す。

項　目	説　　　明
オート	お買い上げ時の設定です。 自動的に最適な無線レートに切り換えます。
1	動きのある画像を高画質で通信させたいときに適しています。
2	標準画質にして通信距離を延ばしたいときに適しています。

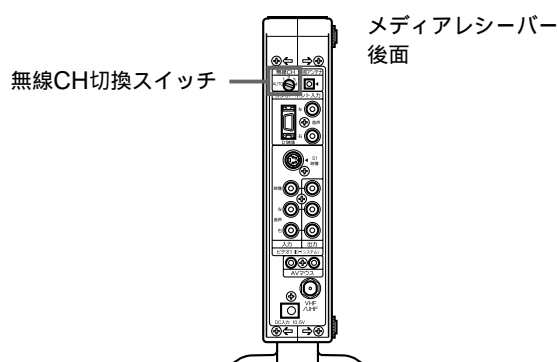
5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

ディスプレイユニットの位置を変えるときは、必ず無線レートをオートにしてください。

画像や音声が途切れたり止まったりするときは（無線チャンネル切り換え）

お買い上げ時は、本機が自動的に最適な無線チャンネルに切り換えるAUTO（オート）に設定されています。

画像や音声が途切れたり止まったりするときは、本機と他の機器の通信帯域が干渉していることがあります。そのときは、メディアレシーバーの無線CH切換スイッチで無線チャンネル設定を切り換えてください。

ご注意

- 無線チャンネル切り換えが「AUTO（オート）」のとき、画面に「接続中」と表示されたり、消えたりをくり返すことがあります。最適な無線チャンネルや空きチャンネルがないときは、時々、最適な無線チャンネルを探しに行くためです。
- 無線チャンネル切り換えが「1」～「4」に設定されているときは、10分間接続できない状態が続くと自動的に電源が切れます。
- 近隣の家やオフィスで使われている機器が干渉していたり、それらの機器によってすでに無線チャンネルがすべて埋まっていたりすることもあります。

よりよい通信状態を確保する

設置場所や周囲の環境によっては、ワイヤレス通信が充分に機能しない場合があります。下記の項目を確認して、よりよい通信状態を確保してください。

ご注意

ワイヤレス通信している間を、人が通過すると画像や音声が乱れたり、停止することがあります。ワイヤレス通信が一時的に影響をうけているためで、異常ではありません。

ワイヤレス通信に影響を及ぼす障害物はありませんか？

- □ ディスプレイユニット、メディアレシーバー、外部アンテナの周囲および、通信している間からできるだけ他の接続機器などを離してください。
- □ 冷蔵庫や電子レンジなど大型電化製品をメディアレシーバーとディスプレイユニットの間に設置しないでください。
- □ 水槽や浴槽、人の多いところなどからできるだけ離して設置してください。
- □ サッシや鉄筋コンクリート、家具などの金属製のものを通信しているところからできるだけ離して設置してください。
- □ 使用していない他の無線機器の通信を切ってください。
- □ メディアレシーバーやディスプレイユニットおよび外部アンテナの近くでドライヤーなどの機器のご使用をやめてください。

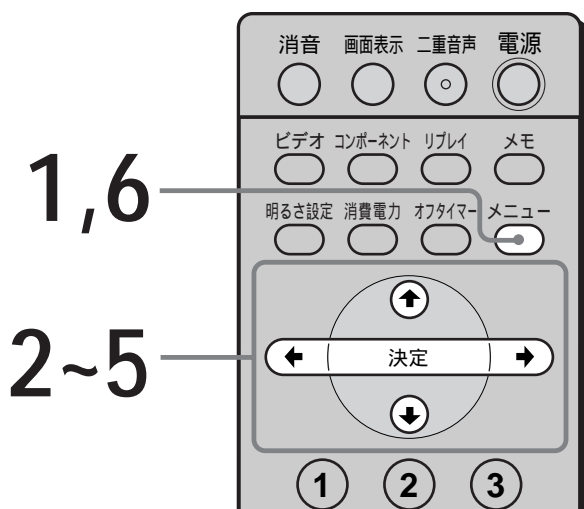
外部アンテナをつないでいますか？

- □ ディスプレイユニット、メディアレシーバー、外部アンテナを床から50 cm以上のところに設置してください。
- □ メディアレシーバーが、接続機器やAVラックなど周囲の影響を受けやすい場所に設置してあったり、ディスプレイユニットまでの距離が遠いときなどは外部アンテナをつないでください。
- □ 外部アンテナがメディアレシーバーからはずれているときは、取り付けなおしてください。
- □ ディスプレイユニットを移動させたり、外部アンテナが倒れたりしたときは、ディスプレイユニットの方向に外部アンテナを向けて設置しなおしてください。
- □ 障害物があるときは、向きを変えてください。

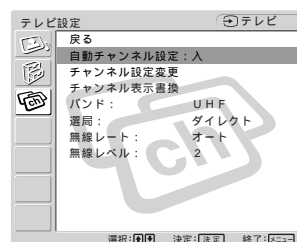
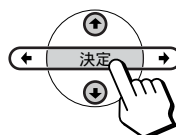
手順7: チャンネルを設定する

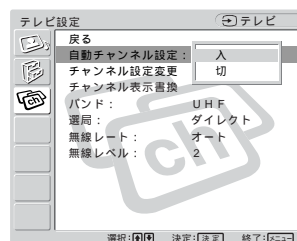
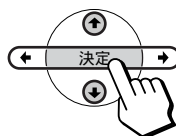
VHF/UHF放送は、自動でも手動でも受信設定できます。はじめに自動設定することをおすすめします。

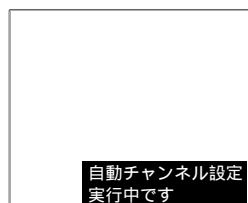
自動設定する

受信できるVHF/UHF放送を、リモコンの数字ボタンに自動的に設定します。放送のある時間帯に行ってください。
自動設定したチャンネルを変更したり、放送のないチャンネルをとばすときは、☞33、34ページをご覧ください。

ご注意
チャンネル設定は、ディスプレイユニットとメディアレシーバーがワイヤレス通信しているときのみ、設定できます。

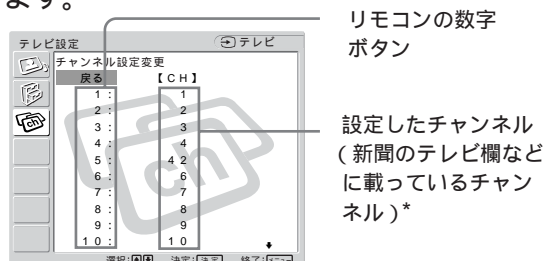
1 **メニューボタンを押す。**

2 **↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **「自動チャンネル設定」が選ばれていることを確認して、決定ボタンを押す。**

選ばれていないときは、↑/↓で選び、決定ボタンを押す。

手順7:
チャンネルを設定する（つづき）

4 ↑/↓で「入」を選び、決定ボタンを押す。

「自動チャンネル設定実行中です」と表示され、自動的に設定が始まります。
設定が終わると、下のメニューに変わります。

リモコンの数字ボタン

設定したチャンネル（新聞のテレビ欄などに載っているチャンネル）*

* 地域によっては、これまでご覧になっていたチャンネル番号と異なる場合があります。

5 設定されたチャンネルを確認する。

手動で設定し直したいときは

☞33ページをご覧ください。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

チャンネル設定を途中でやめるには

手順4で「自動チャンネル設定実行中です」のメッセージが出ている間に、リモコンのメニューボタンを押す。

ご注意

自動チャンネル設定中はディスプレイユニットを動かさないでください。

ケーブルテレビを見るには

ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要です。なお、ケーブルテレビを受信できない地域もあります。このテレビでは、C13〜C35までのケーブルテレビチャンネルを受信できます。詳しくは、お近くのケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

1. **ダイレクト選局になっていることを確認する（☞34ページ）。**
2. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
3. **↑/↓で「（テレビ設定）」を選び、決定ボタンを押す。**
4. **↑/↓で「バンド」を選び、決定ボタンを押す。**
5. **↑/↓で「CATV」を選び、決定ボタンを押す。**
6. **↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。**
7. **↑/↓でケーブルテレビを映したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。**
8. **↑/↓でケーブルテレビのチャンネルを選び、決定ボタンを押す。**
   ケーブルテレビのチャンネルには、表示の前に「C」がつきます。
   例:C24
9. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ご注意

- ケーブルテレビとUHF放送を同時に受信したり、チャンネル設定したりすることはできません。
- ケーブルテレビで「10キー選局」（☞34ページ）をするときは、自動設定で受信設定をした後、「10キー選局」に切り換えてください。

手動設定する

自動設定したチャンネルを変えたり、表示を書き換えたり、放送のないチャンネルをとばすことができます。
1〜15のチャンネル数字ボタンを、手動で設定できます。

リモコンの数字ボタンに設定したチャンネルを変えるには

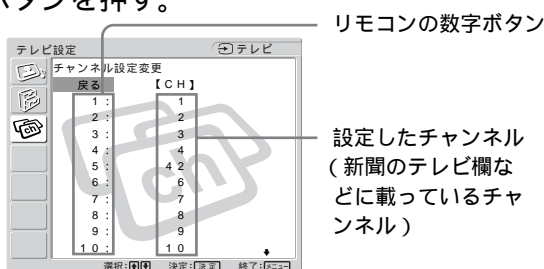
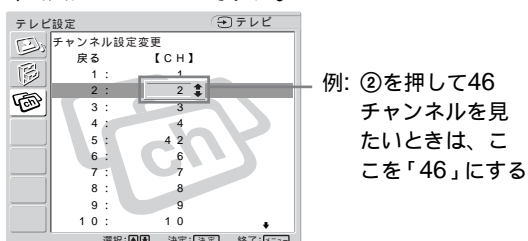
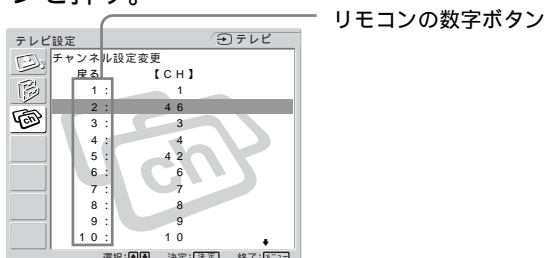
リモコンの数字ボタンに好きなチャンネルが映るように変えられます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で変更したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。

例: ②を押して46チャンネルを見たいときは、ここを「46」にする

5 ↑/↓で設定したチャンネルを変更し、決定ボタンを押す。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言

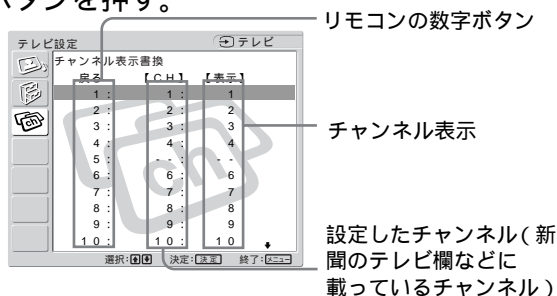
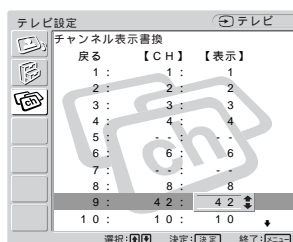
- 手動設定でケーブルテレビの受信の設定をするときは、「(テレビ設定)」メニューで、「バンド」を「CATV」にしてください。詳しくは、(☞32ページ) をご覧ください。
- リモコンの数字ボタンの13〜15に、UHFチャンネルを設定すると、チャンネルの順がわかりやすくなり便利です。

チャンネル表示を書き換えるには

画面に出るチャンネル表示は、新聞のテレビ欄などに載っているチャンネルになっています。これを、好きなチャンネル番号などに書き換えることができます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「チャンネル表示書換」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で書き換えたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓でチャンネル表示を書き換え、決定ボタンを押す。

例: 42チャンネルを「5」と表示したいときは、ここを「5」に変える

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言

チャンネルと表示が1対1で対応するように、チャンネル表示を書き換えてください。複数のチャンネルを同一のチャンネル表示にすることもできますが、おすすめしません。

次のページにつづく

手順7:
チャンネルを設定する（つづき）

放送のないチャンネルをとばすには

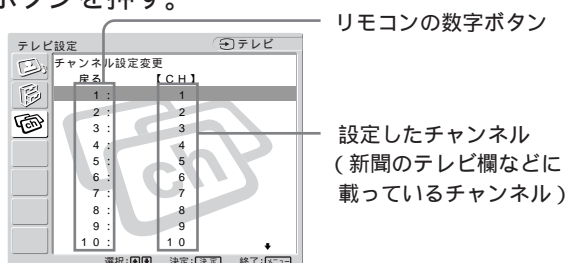
チャンネル＋/－ボタンでチャンネルを選ぶときに、放送のないチャンネルをとばす（選局しない）ように設定できます。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「 （テレビ設定）」を選び、決定ボタンを押す。

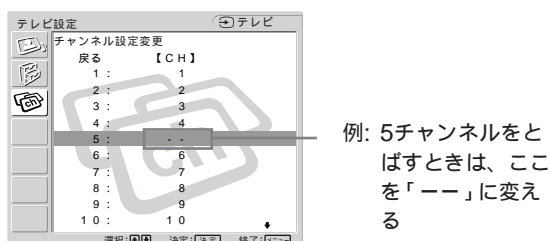
3 ↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

リモコンの数字ボタン

設定したチャンネル（新聞のテレビ欄などに載っているチャンネル）

4 ↑/↓でとばしたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

例: 5チャンネルをとばすときは、ここを選ぶ

5 ↑/↓で「ーー」を選び、決定ボタンを押す。

例: 5チャンネルをとばすときは、ここを「ーー」に変える

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

手順8:数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ［10キー選局］

お買い上げ時は「ダイレクト選局」になっています。

「ダイレクト選局」は、リモコンの数字ボタンと同じチャンネルが映る選局方法で、受信できるチャンネル数は最大15局です。

そのため、ケーブルテレビなど見たいチャンネルの数が15局を越えるときは、「10キー選局」に変えてください。

「10キー選局」では、数字ボタンを十の位・一の位の順に押した後、⑫/選局を押して、チャンネルを選びます。0は⑩/0を使います。

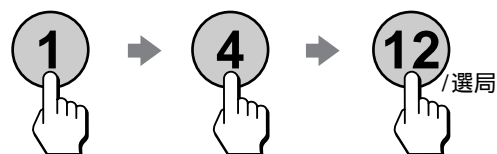
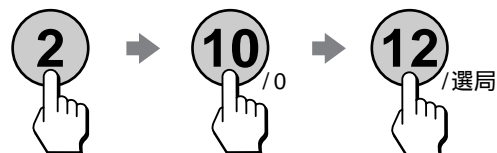
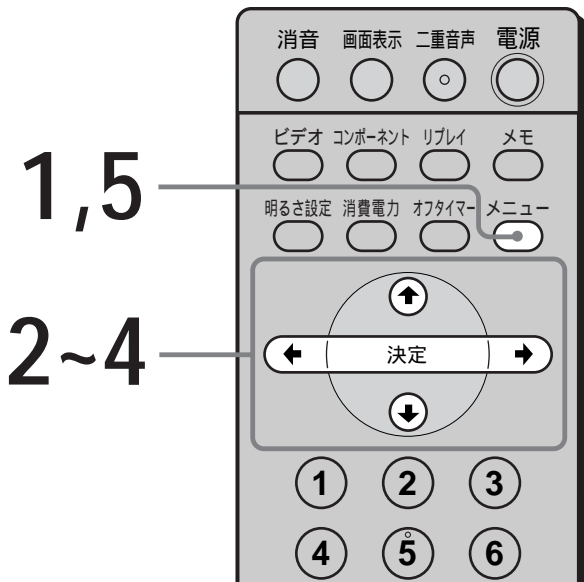
ちょっと一言

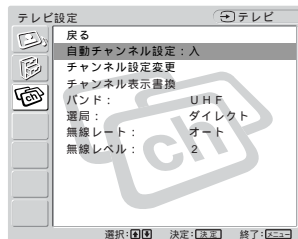
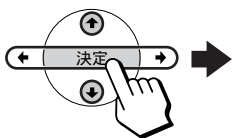
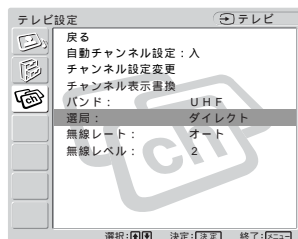
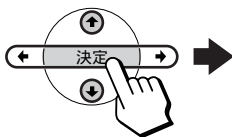
⑫/選局を押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐに切り換わります。

例） 14**チャンネル**

20**チャンネル**

1 メニューボタンを押す。

2 ↑/↓で「ch（テレビ設定）」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「選局」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓で「10キー」を選び、決定ボタンを押す。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ダイレクト選局に戻すには

手順4で「ダイレクト」を選ぶ。

ご注意

- チャンネルを自動設定する（☞31ページ）ときは、ダイレクト選局に戻してから行ってください。
- ケーブルテレビのときは、手順2の後に下記の操作をした後、手順3以降を行ってください。
  1 ↑/↓で「バンド」を選び、決定ボタンを押す。
  2 ↑/↓で「CATV」を選び、決定ボタンを押す。
  3 手順3以降を行う。

次のページにつづく

手順8:数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ［10キー選局］（つづき）

チャンネル＋/−ボタンで選ぶ放送を設定するには

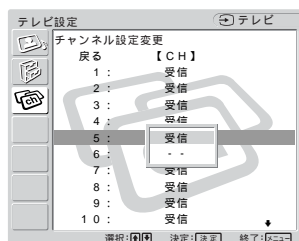
お買い上げ時は1〜12チャンネルが順に選ばれるように設定されています。ケーブルテレビなどでこれ以外のチャンネルを選ぶときや、放送がないチャンネルをとばすときは、次のように設定します。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

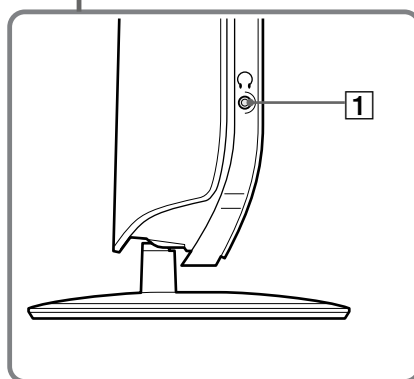
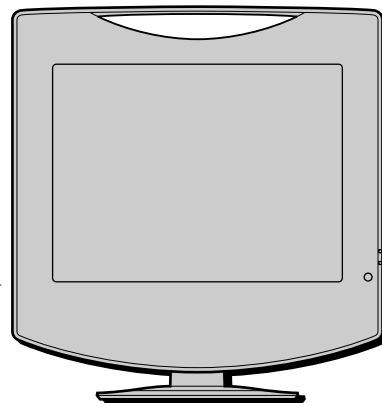
4 ↑/↓で見たいチャンネル、またはとばしたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓で見たいチャンネルのときは「受信」を、とばしたいチャンネルのときは「−−」を選び、決定ボタンを押す。

6 複数のチャンネルを設定するときは、手順4と5をくり返す。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

他機との接続

ここでは、接続端子の名前とはたらき、およびビデオデッキなど他の機器のつなぎかたについて説明しています。
テレビを見るための接続と準備については、「接続と準備」（☞21〜36ページ）をご覧ください。

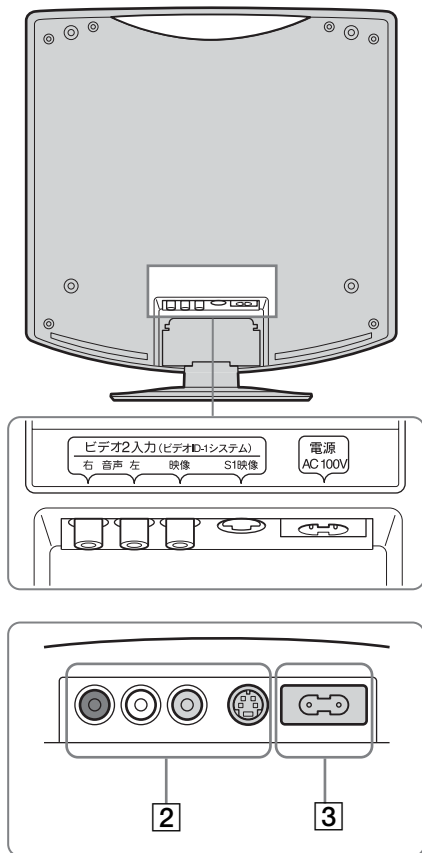
接続端子の名前とはたらき

☞のページに詳しい説明があります。

1 ヘッドホン端子
ヘッドホンをつなぎます。

他機との接続

次のページにつづく

接続端子の名前とはたらき（つづき）

ディスプレイユニット後面

下から見た図

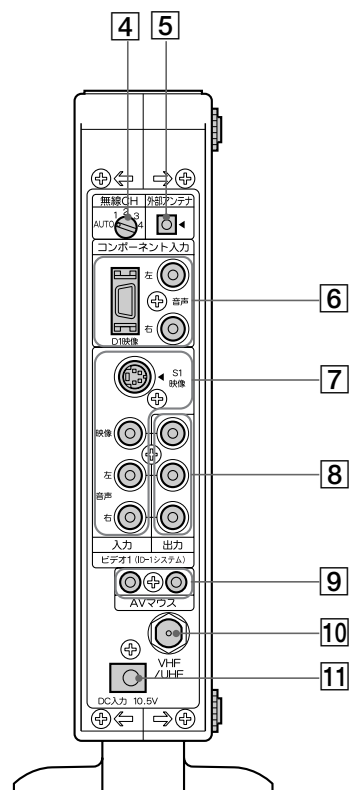
メディアレシーバー後面

☞のページに詳しい説明があります。

2 **ビデオ2入力端子**（S1**映像/映像/音声**）（**ビデオ** ID-1**システム**）（☞47**ページ**）

"プレイステーション 2"などのテレビゲームのビデオ出力端子につなぎます。無線送受信による映像や音声の遅延などの影響がありません。
また、メディアレシーバーの電源が入っていなくても映像や音声を楽しむことができます。

3 AC IN**端子**（☞28**ページ**）

本体用電源コードをつなぎます。

4 **無線**CH**切換スイッチ**（☞30**ページ**）

5 **無線外部アンテナ端子**（☞25**ページ**）

外部アンテナをつなぎます。

6 **コンポーネント入力端子**（D1**映像/音声**）（☞44～46**ページ**）

D1**映像入力端子**

BSデジタルチューナーやDVDプレーヤーなどのD映像出力端子につなぎます。

音声入力端子

BSデジタルチューナーやDVDプレーヤーなどの音声出力端子につなぎます。

コンポーネント入力端子（D1**映像/音声**）**に**BS**デジタルチューナーをつなぐときは**（☞44**ページ**）

コンポーネント入力端子（D1**映像/音声**）**に**DVD**プレーヤーをつなぐときは**（☞46**ページ**）

7 ビデオ1入力端子（S1映像/映像/音声）（ID-1システム）（☞42〜46ページ）

ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

8 ビデオ1出力端子（映像/音声）（ID-1システム）（☞43ページ）

他のテレビなどにつなぎます。
ビデオ1入力の信号がメディアレシーバーの電源の入/切に関わらずそのまま出力されます。
ビデオデッキをビデオ1入力につなぎ、ビデオ1出力を他のテレビなどにつなぐとビデオデッキの再生画像が、本機と他のテレビで見られます。

ご注意

- ビデオ出力端子に映像・音声コードをつなぐときは、必ず入力側の端子にもつないでください。出力側だけにコードをさしたときは、本機の映像が乱れることがあります。
- 映像と音声がずれてしまうため、スピーカーやオーディオにはつながないでください。ディスプレイユニット側でワイヤレス通信による映像の遅延の影響を受けるためです。

9 AVマウス端子（☞42、46ページ）

AVマウスをつなぎます。
AVマウスでつないだ機器のリモコンをディスプレイユニットに向けて、つないだ機器を操作できます。

10 VHF/UHFアンテナ端子（☞23ページ）

VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルやケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

11 DC入力10.5V端子（☞28ページ）

ACアダプターをつなぎます。

D端子について

BSデジタル放送*には次のような信号フォーマットがあります。

* BSデジタル放送の受信には、別途、BSデジタルチューナーが必要となります。

信号フォーマット	走査線数	有効走査線数
525i（480i）	525本	480本
525p（480p）	525本	480本
1125i（1080i）	1125本	1080本
750p（720p）	750本	720本

iはインターレース：飛び越し走査、pはプログレッシブ：順次走査の略です。（☞55ページ）
（ ）内は走査線数で数えたときの別称です。

BSデジタル放送の信号フォーマットに対応するD端子の種類は次のようになっています。

D端子の種類とその対応信号フォーマット

D端子の種類	525i	525p	1125i	750p
D1端子	○	×	×	×
D2端子	○	○	×	×
D3端子	○	○	○	×
D4端子	○	○	○	○

本機にはD1映像入力端子がついています。BSデジタルチューナーの出力設定については、BSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

ビデオやチャンネルサーバーをつなぐ

ビデオデッキ、ビデオカメラ、またはDVDプレーヤー、BSデジタルチューナーをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

S1映像端子と映像端子のどちらにつなぐか迷ったときは

よりよい画質でご覧いただくために、S1映像端子につないでください。
つなぐ機器にS映像端子がない場合は、映像端子につなぎます。

テレビのビデオ1、2入力のS1映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは

ビデオの映像信号をどちらの端子から入力するかを、メニュー画面で設定できます。お買い上げ時は、S1映像入力端子から入力された画像が映ります。

1 ビデオボタンをくり返し押して、切り換えたいビデオ入力を選ぶ。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 ♠/♣で「(各種切換)」を選び、決定ボタンを押す。

4 ♠/♣で「S映像」を選び、決定ボタンを押す。

5 S1映像入力端子から入力された画像を見るときは

♠/♣で「入」を選び、決定ボタンを押す。

映像入力端子から入力された画像を見るときは

♠/♣で「切」を選び、決定ボタンを押す。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

AVマウスを取り付けるには

AVマウスは、つないだ機器のリモコンを本機のディスプレイユニットに向けて、つないだ機器を操作できるように信号を出します。ビデオやチャンネルサーバー、DVDプレーヤーなどをつないだときは、本機のメディアレシーバーAVマウス端子とつないだ機器のリモコン受光部にAVマウスを取り付けると便利です。

1 AVマウスに付属のシールを貼る。

AVマウスに付属のシールのかわりに市販の両面テープも使えます。

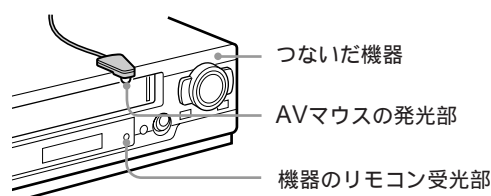
2 AVマウスをメディアレシーバー後面のAVマウス端子につなぐ。

接続のしかたについて詳しくは、☞42ページをご覧ください。

3 AVマウスの取付け予定位置を決める。

つなぐ機器の取扱説明書でリモコン受光部を確認し、受光部の真上にAVマウスを置きます。

ご注意
- AVマウス裏面のシールは、まだはがさないでください。
- 取付け位置によっては、動作しにくい機器があります。できるだけ受光部に近い位置に取り付けてください。

ちょっと一言
- AVマウスが機器に届かないときは、別売りの接続コードRK-G131（3m）で延長してください。
- ソニー製機器のリモコン受光部には 🅁 マークが付いています。

4 動作テストをする。

つないだ機器のリモコンで、電源のオン/オフなどでリモコンの信号の送受信ができることを確認してください。

5 AVマウスを固定する。

動作テストで確認できたら、AVマウスの裏面シールをはがし、手順3で決めた取付け予定位置にAVマウスを固定します。

ご注意

- 機器にほこりが付いていると、きちんと固定できません。機器のほこりを取り除いてからAVマウスを固定してください。
- メーカーによっては、AVマウスをつないでもリモコン動作しないことがあります。

AVマウスを使うには

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

2 ↑/↓で「(各種切換)」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓で「AVマウス設定」を選び、決定ボタンを押す。

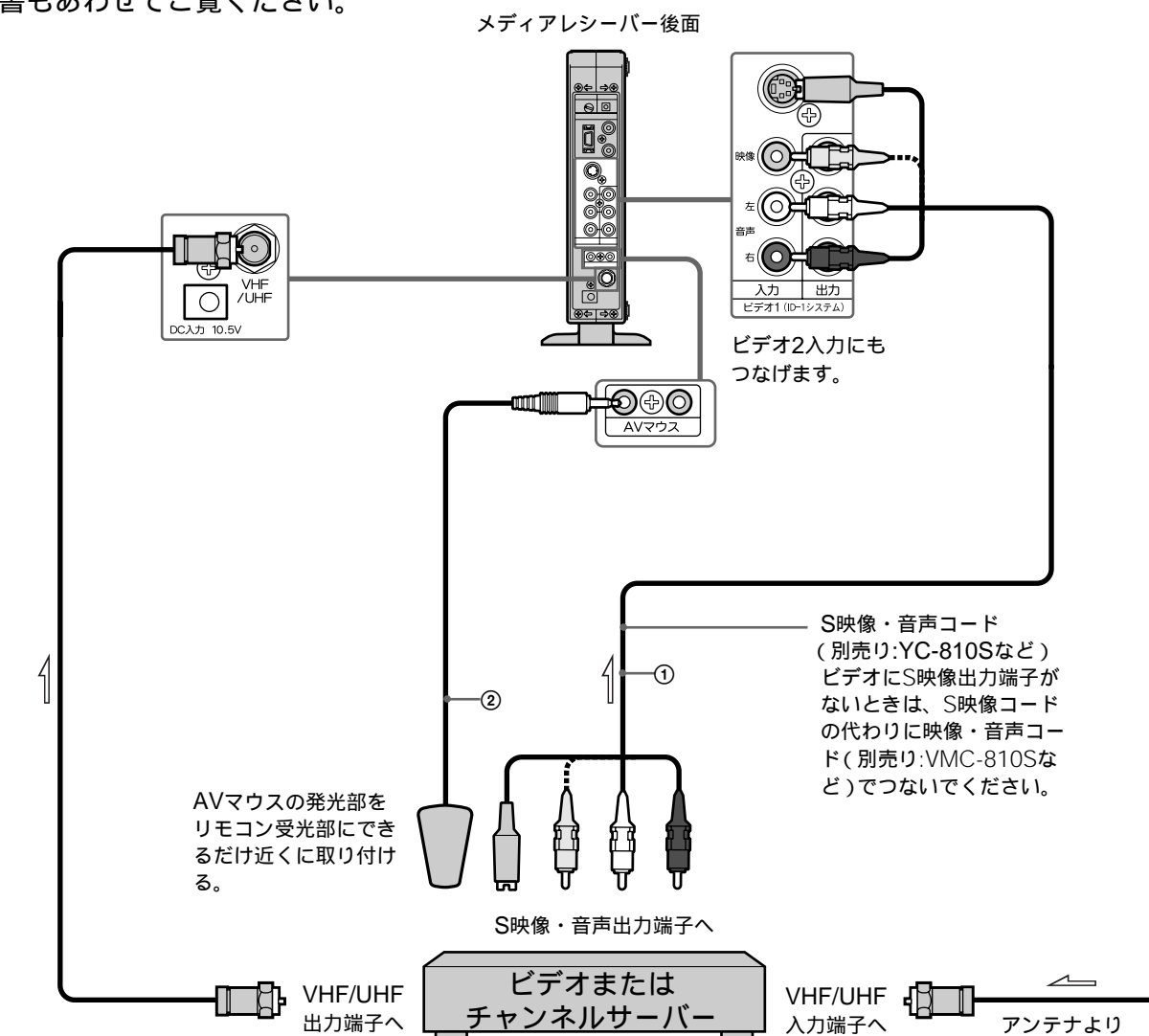
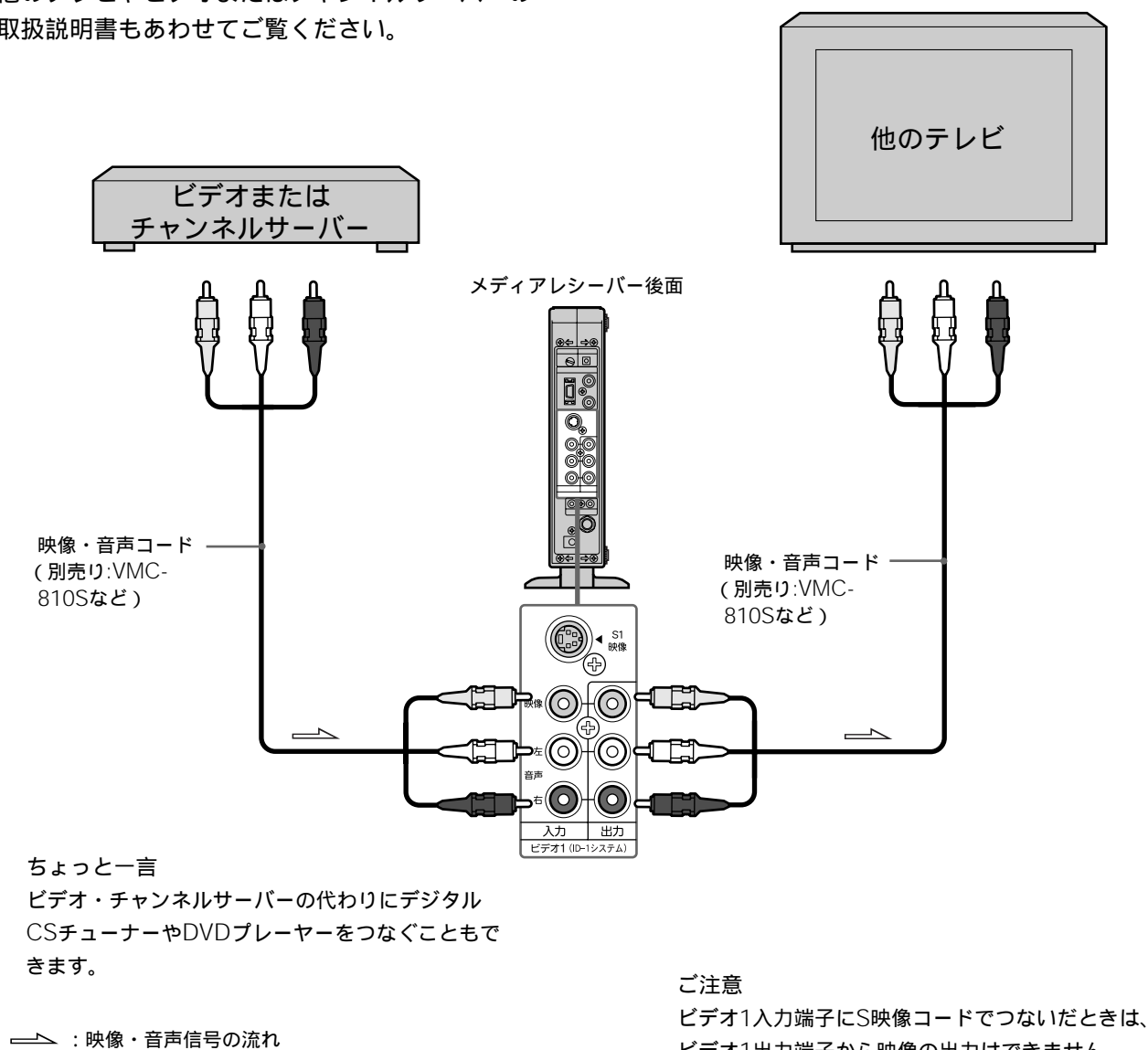
4 ↑/↓で「入」を選び、決定ボタンを押す。

AVマウスを使わないときは、「切」を選びます。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

他機との接続

ビデオやチャンネルサーバーをつなぐ（つづき）

ビデオまたはチャンネルサーバーの再生画像を見るための接続です。
ビデオまたはチャンネルサーバーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

⟹：映像・音声信号の流れ

①ビデオやチャンネルサーバーの再生画像を見るための接続です。

ちょっと一言
D端子があるチャンネルサーバーとつなぐときは、D映像コード（別売り：VMC-DD20CVなど）でもつなげます。

②ビデオやチャンネルサーバーのリモコンをディスプレイユニットに向けてビデオの操作をするための接続です。
AVマウスを取り付けるには、☞40ページをご覧ください。

ビデオやチャンネルサーバーを見るには

ビデオボタンをくり返し押して、ビデオやチャンネルサーバーをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞13ページをご覧ください。

ビデオやチャンネルサーバーを見るには

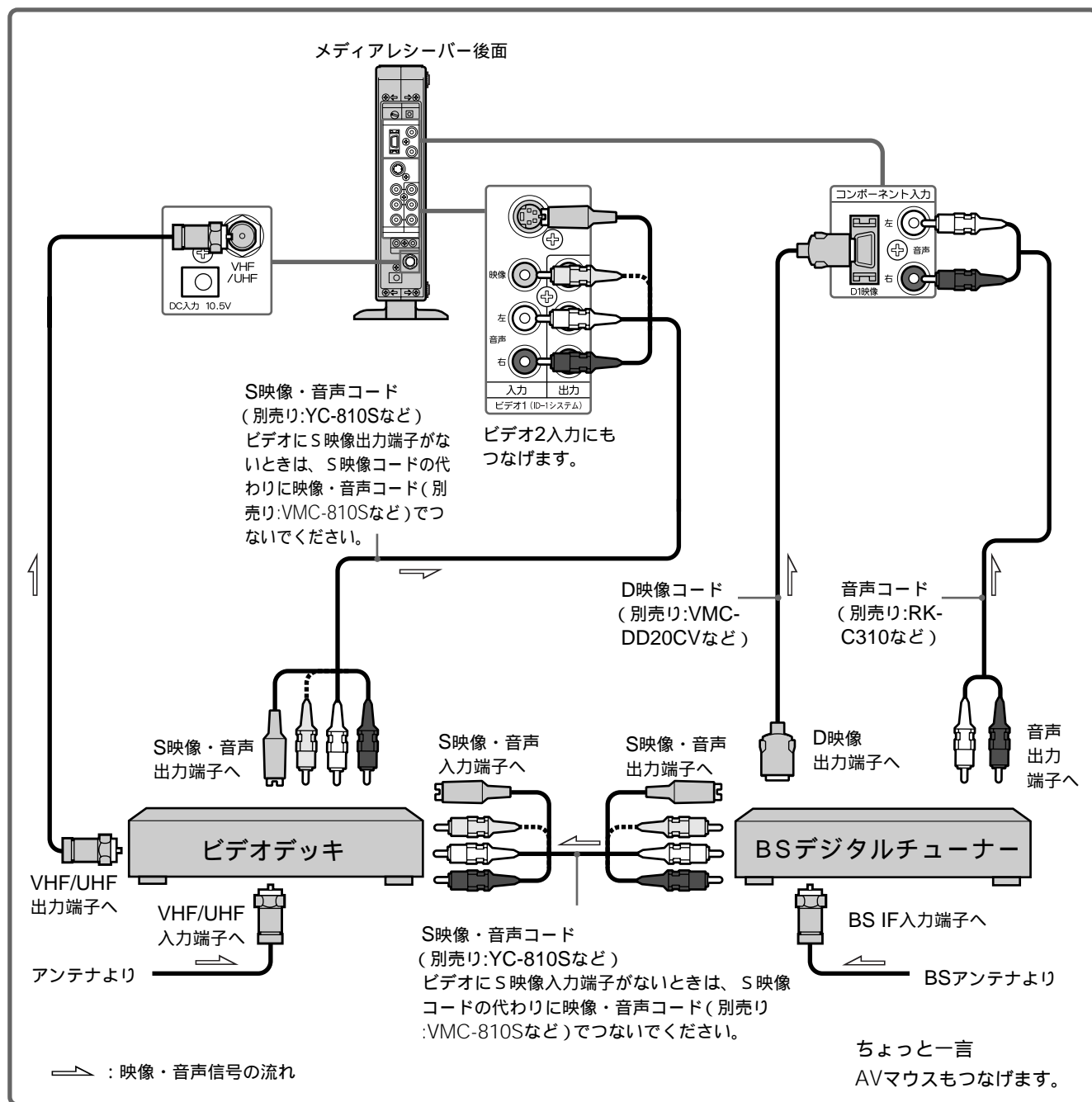
ビデオボタンをくり返し押して、ビデオやチャンネルサーバーをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。

詳しくは、☞13ページをご覧ください。

ちょっと一言

メディアレシーバー後面のビデオ1出力端子からは、ビデオ1入力の信号がメディアレシーバーの電源入／切にかかわらずそのまま出力されます。

BSデジタルチューナーをつなぐ

2000年12月から放送が開始されたBSデジタル放送を見るには、BSデジタルチューナーが必要です。BSデジタルチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

BSデジタル放送を見るには

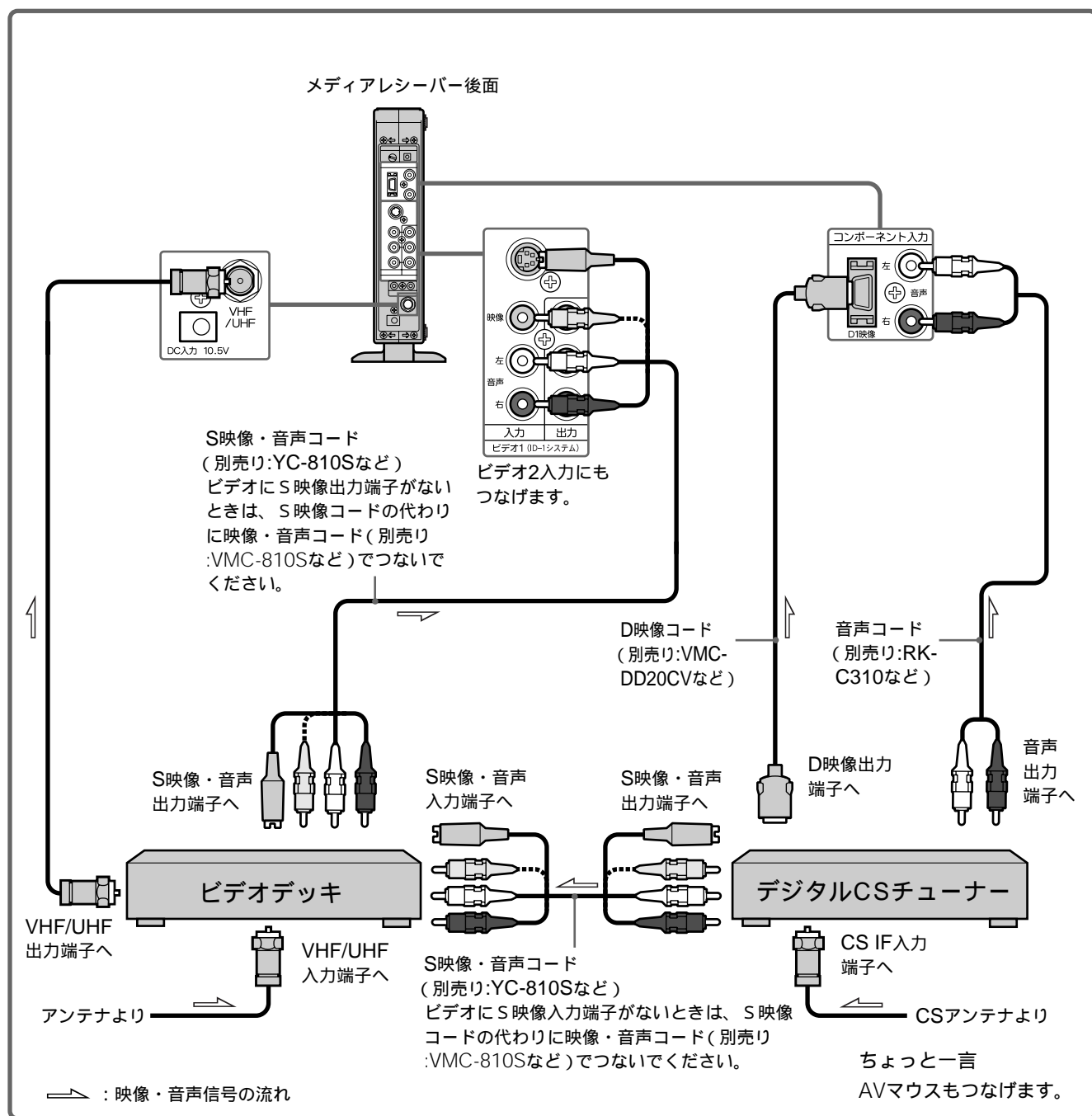
コンポーネントボタンをくり返し押して、BSデジタルチューナーをつないだコンポーネント入力（「コンポーネント」）を表示させる。
詳しくは、☞13ページをご覧ください。

ご注意

メディアレシーバーにつなぐと、映像や音声、また視聴者参加型双方向番組などでのリモコンによる入力操作の反応は無線送受信による遅延などの影響を受けやすくなります。無線の送受信による遅延が気になるときはディスプレイユニット側のビデオ2入力につないでください。

デジタルCSチューナーをつなぐ

デジタルCS放送*を見るには、デジタルCS放送局と受信契約が必要です。詳しくはデジタルCS放送局へお問い合わせください。
デジタルCSチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

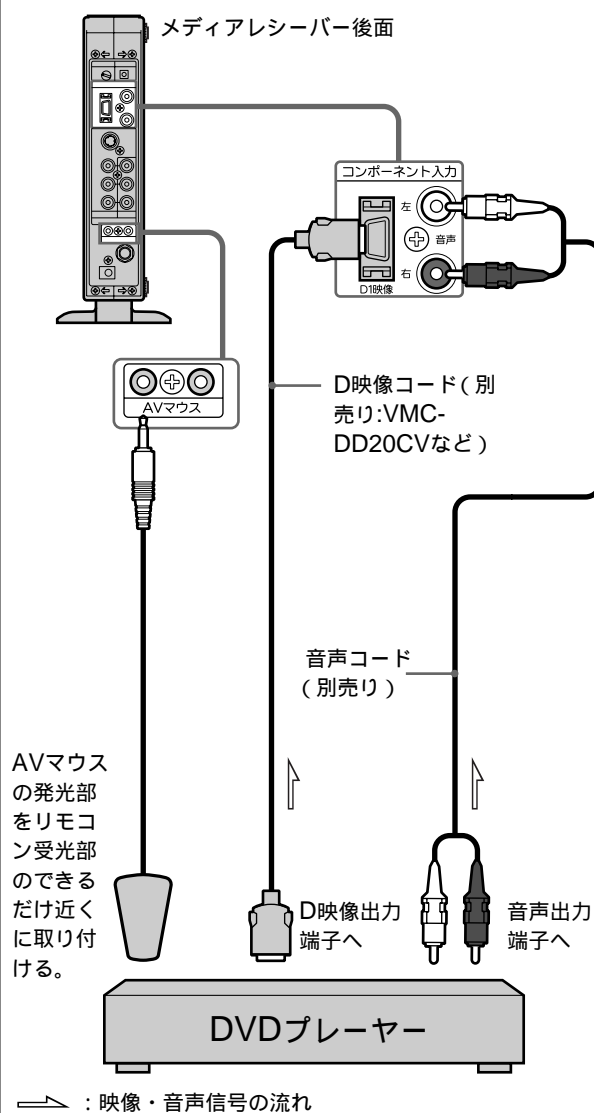
* スカイパーフェクTV！のことです。110度デジタル放送ではありません。

デジタルCS放送を見るには

コンポーネントボタンをくり返し押して、デジタルCSチューナーをつないだコンポーネント入力（「コンポーネント」）を表示させる。
詳しくは、☞13ページをご覧ください。

他機との接続

DVDプレーヤーをつなぐ

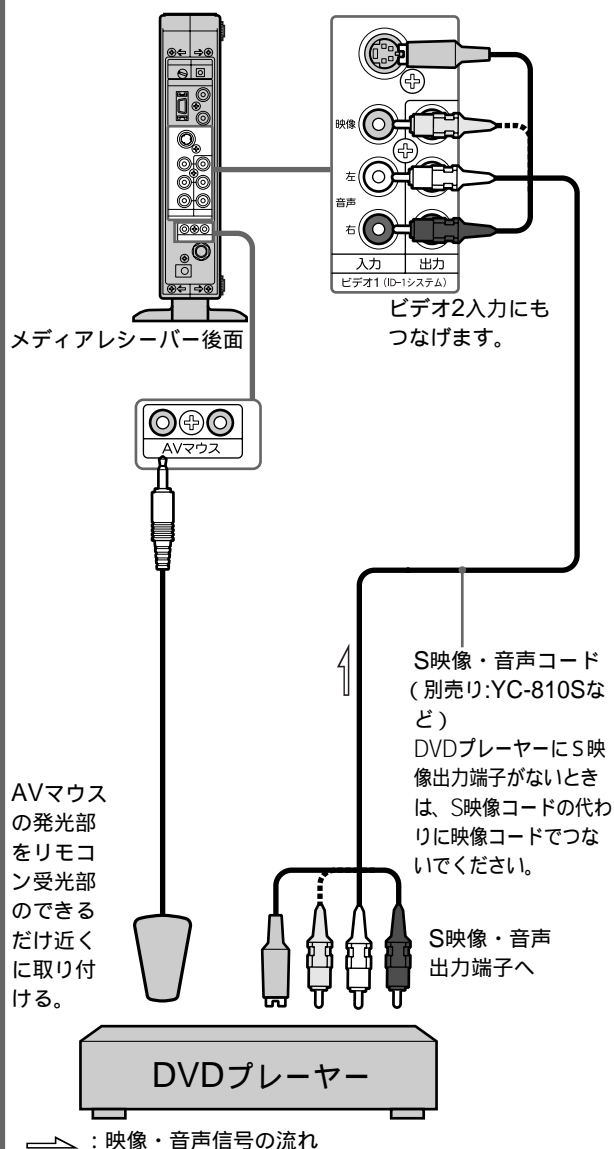
コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーはコンポーネント入力端子につなぐと、より高画質の画像をお楽しみいただけます。
DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは

D映像コードの代わりに、映像コード（別売り: VMC-DP20CVなど）を使ってY端子、CB端子、CR端子とD端子をつなぐこともできます。

DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは

コンポーネントボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだコンポーネント入力（「コンポーネント」）を表示させる。
詳しくは、☞13ページをご覧ください。

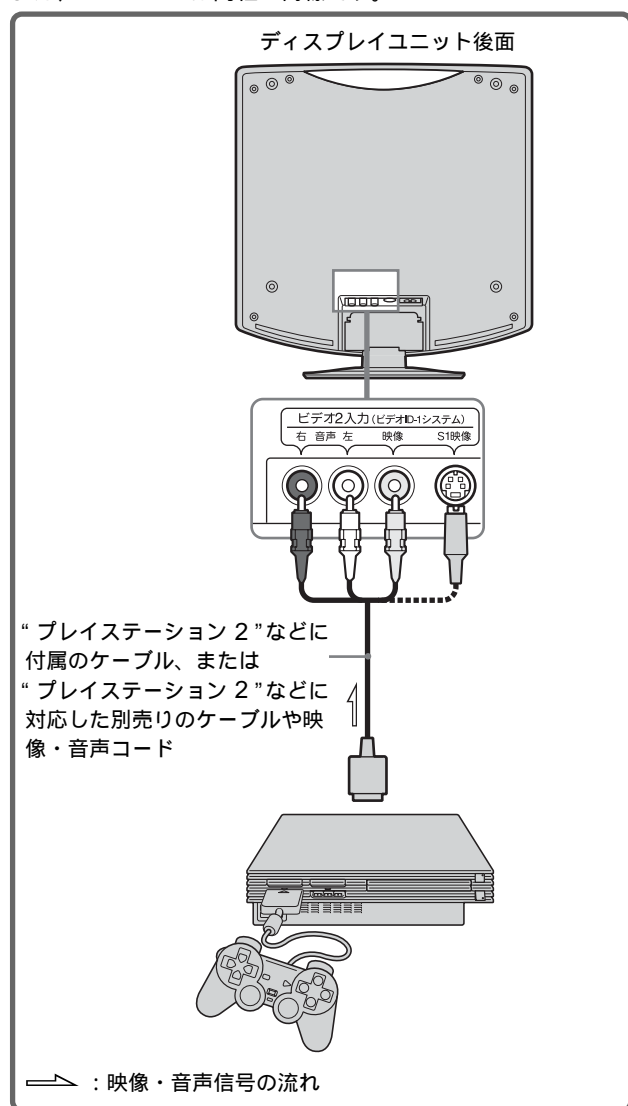
コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

ビデオボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞13ページをご覧ください。

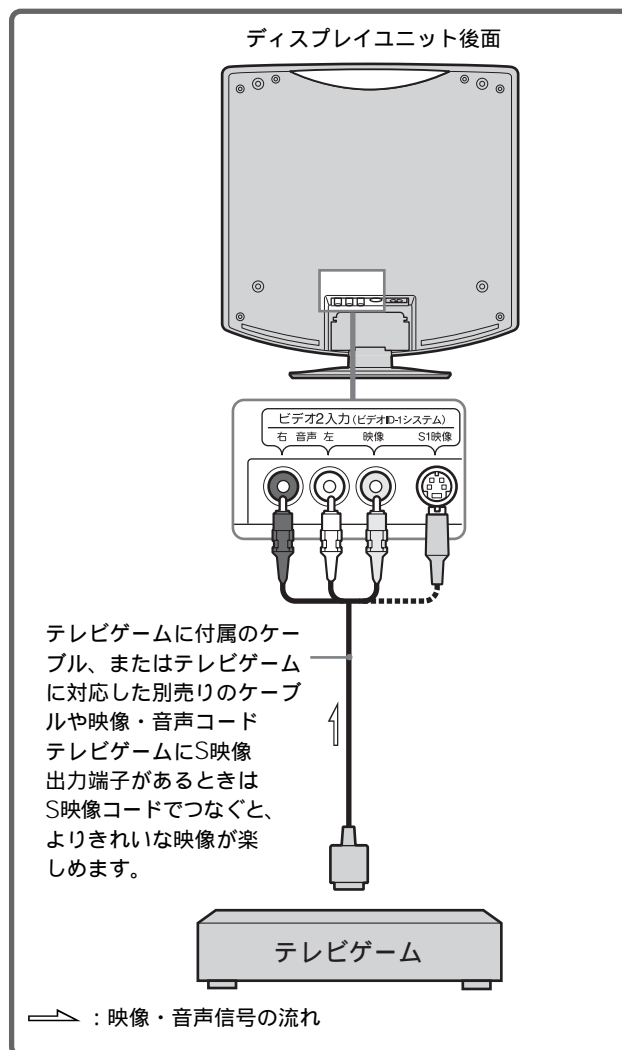
“ プレイステーション 2 ”などをつなぐ

“ プレイステーション 2 ”、
“ プレイステーション ”(PS one) および
“ プレイステーション ”の取扱説明書もあわせて、お読みください。

“ プレイステーション ”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
また、“ PS one ”は同社の商標です。

“ プレイステーション 2 ”、“ プレイステーション ”(PS one) および “ プレイステーション ”を使うには

ビデオボタンをくり返し押して、ビデオ2入力（「ビデオ2」）を表示させる。
詳しくは☞13ページをご覧ください。

その他のテレビゲームなどをつなぐ

テレビゲームの取扱説明書もあわせてお読みください。

テレビゲームをするには

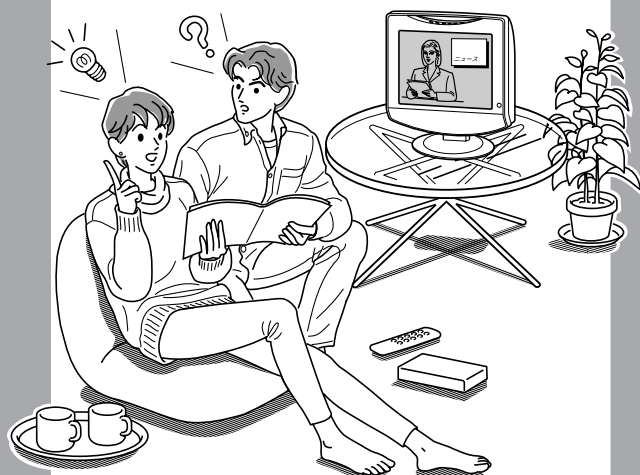
ビデオボタンをくり返し押して、テレビゲームをつないだビデオ2入力（「ビデオ2」）を表示させる。
詳しくは、☞13ページをご覧ください。

ご注意

- “ プレイステーション 2 ”などのテレビゲームは、ディスプレイユニット側のビデオ2入力端子につないでください。メディアレシーバー側のビデオ1入力端子につなぐと無線送受信による映像や音声の遅延などの影響を受けやすくなります。
- 電子的なライフルやガン（銃）などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、テレビの画面を使用できないことがあります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

他機との接続

その他

ここでは、テレビが正常に動かないときに解決する方法や、お手入れのしかたなどについて説明しています。
また、各部の名前や索引を使って、知りたい情報を探すこともできます。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度、点検をしてください。それでも、正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

セットの型名：
ケーエルブイ　ダブリューエス
KLV-15WS1

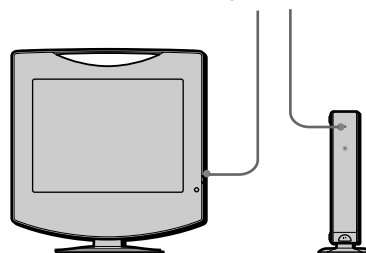
リモコンの型名：
アールエム　ジェイ
RM-9241J

外部アンテナの型名：
エーエヌ　ダブルエス
AN-WS1

故障の状況：できるだけくわしく

購入年月日：

自己診断表示

ディスプレイユニットには自己診断表示機能がついています。これは異常が起きたときに、電源ランプの点滅で状態をお知らせし、よりスムーズにサービス対応させていただくための機能です。電源ランプが赤色に点滅したら、下の手順にそって、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

1 電源ランプの点滅時間（赤色）を計ってください。
　たとえば、2秒点灯→1秒消灯→2秒点灯
2 ディスプレイユニットの電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に点滅のしかた（時間）を知らせてください。

テレビの症状と対処のしかた

症状		対処のしかた
ワイヤレス（無線）で通信できない／通信状態が悪い	**通信できない、または通信状態が悪く画像が乱れる。**	• 電源ケーブルをつないでください。 •「よりよい通信状態を確保する（☞30ページ）」で、確認してください。 • 外部アンテナをつないでください。 • メディアレシーバーの無線CH切換スイッチで、無線チャンネル設定を切り換えてください。 • メディアレシーバーやディスプレイユニット、および外部アンテナの周りや通信から他の接続機器や金属性、または金属粉を蒸着したCDやDVDなどを別の場所に移動してください。 • 障害物による通信影響のない別の場所に設置してください。 • 通信距離を近づけてください。 • 接続機器を、ディスプレイユニット側のビデオ2入力につないでください。 • 床暖房設備など、ワイヤレス通信に影響を及ぼしやすい床や天井を隔てて設置しているときは、同じ階下に置いてください。 •「(テレビ設定)」メニューで「無線レート」「2」にしてください（☞29ページ）。
	画面に「接続中」と表示されたり、消えたりをくり返す。	• 無線チャンネル切り換えが「AUTO（オート）」のとき、最適な無線チャンネルや空きチャンネルがない場合、時々、最適なチャンネルを探しに行くためです（☞30ページ）。
	つないだ機器の画像や音声が遅れる。	• ディスプレイユニット側のビデオ2入力につないでください。ワイヤレス通信による遅延の影響を受けません。
画像が出ない	**すべてのチャンネルが映らない。**	• 電源コードをしっかりつないでください。 • テレビ本体の電源を入れてください。 • アンテナ線をしっかりつないでください。
	特定のチャンネルだけが映らない。	• チャンネルを合わせ直してください（☞31ページ）。
	テレビの電源が突然切れた/いつのまにか消えていた（スタンバイ状態になった）。	• テレビの消し忘れを防ぐため、放送終了後、または放送のないチャンネルを受信している状態や、メディアレシーバーとディスプレイユニットの間の通信ができず、ディスプレイユニットに映像が映っていない状態で、約10分過ぎると、「まもなく電源が切れます」と表示されて、自動的にスタンバイ状態になります。 • オフタイマーを設定していませんでしたか?（☞20ページ）
	つないだ機器の画像が出ない。	• 接続コードをしっかりつないでください。 • リモコンの入力切換ボタンを押してください（☞13ページ）。 • S映像入力のときは、「(各種切換)」メニューで「S映像」を「入」にしてください（☞40ページ）。
きれいに映らない	**画像が二重、三重になる。**	• アンテナ線をしっかりつないでください。 • テレビアンテナの位置、方向、角度を調整してください。
	雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。	• テレビアンテナが風でこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 • テレビアンテナの寿命を確認してください（通常3～5年、海辺では1～2年）。
	斑点や点模様が走る。	• ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。テレビアンテナはなるべく道路から離して設置してください。
	色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。	• 明るさ設定ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞8ページ）。 •「(画質/音質)」メニューで、画質を調整してください。 •「消費電力:減」のときは、画面が暗くなります（☞14ページ）。
	画面がまぶしい。	• 明るさ設定ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞8ページ）。
	縞状のノイズが多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 • アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 • フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。

次のページにつづく

故障かな？と思ったら（つづき）

症状		対処のしかた
音が出ない／雑音が多い	**画像は出るが、音が出ない。**	• 音量が下がりきっていないか確認してください。 • 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ボタンを押して表示を消してください。 • ヘッドホンを抜いてください。
	雑音が多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 • アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 • フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 • 「（各種切換）」メニューで「オートステレオ」を「切」にしてください（☞19ページ）。
メニューが選べない	**メニューで選べない項目がある。**	• 薄く表示されている項目は選べません（見ている画像の種類やメニューの設定によって、選べないように制約されています）。
画面が切り換わる／つぶれて見える	**「ワイドモード」が「オート」のときに画面モードが勝手に切り換わる。**	• 横縦比の信号（D1映像入力端子からのBSデジタル放送やID-1/S1方式）が入った映像は、自動判別して、縦方向を圧縮した横縦比16:9のワイド画面にするためです。
	「ワイドモード」が「入」のときに画面がつぶれて見える。	• 通常のテレビやBS放送など横縦比4:3の映像で、「ワイドモード」を「入」にすると、縦方向に圧縮されて不自然に見えることがあります。メニューの「各種切換」で「ワイドモード」を「オート」にしてください（☞11ページ）。 • ワイドクリアビジョン放送や上下に黒帯が入っている横長の映画などのワイド画像のときは、横縦比の信号が含まれていないため、従来から入っていた黒帯部分まで縦方向に圧縮されて、よりつぶれた映像になるためです。メニューの「各種切換」で「ワイドモード」を「オート」または「切」にしてください（☞11ページ）。
リモコンが働かない	**リモコンで操作できない。**	• 電池を交換してください。 • 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。 • テレビ本体のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯していないときは、テレビ本体の電源スイッチを押してください。 • リモコンをテレビのリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 • リモコン受光部の近くに蛍光灯などの強い照明があたっているときは、照明があたらないように、照明器具またはテレビの位置を調整してください。
	リモコンのチャンネル数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**ダイレクト選局の場合（☞34ページ）** • 「（テレビ設定）」メニューで「選局」が「ダイレクト」になっているかを確認してください。 **10キー選局の場合（☞34ページ）** • 「（テレビ設定）」メニューで「選局」が「10キー」になっているかを確認してください。 • 11チャンネルは①を2回、12チャンネルは①と②を続けて押してから、⑫/選局を押してください。 • チャンネル数字ボタンに続けて⑫/選局を押してください。

使用上のご注意

電源についてのご注意

付属のACパワーアダプターをお使いください。

使用・設置場所についてのご注意

次のような場所での使用・設置はおやめください。

- 屋外
- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内はとくに高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど、温度の高い場所
  変形したり、故障したりすることがあります。
- 振動の多い場所
- 強力な磁気のある場所
- 暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。適度の明るさの中でご覧ください。また、連続して長い時間、画面を見ていることも目を疲れさせます。
- テレビの底面よりも、広くて水平で丈夫な場所に置いてください。
- 壁に掛けて使用するときは必ず専用の壁取付金具（別売り）を使用してください。

音量について

- 周辺の人の迷惑とならないよう適度の音量でお楽しみください。特に、夜間での音量は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを使用したりして、隣近所への配慮を十分し、生活環境を守りましょう。
- ヘッドホンをご使用のときは、耳をあまり刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。

液晶画面についてのご注意

- 液晶画面を太陽にむけたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。窓際などに置くときなどはご注意ください。
- 前面のフィルターを強く押したり、ひっかいたり、上にものを置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒い所でご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元に戻ります。
- 使用中に画面やキャビネットがあたたかくなることがありますが、故障ではありません。

蛍光管についてのご注意

本機は内部照明装置として専用蛍光管を使用しておりますが、この蛍光管には寿命があります。画面が暗くなったり、チラついたり、点灯しないときは、新しい専用蛍光管に取り替えてください。蛍光管の交換については、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にお問い合わせください。

輝点・滅点について

画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）がある場合がありますが、故障ではありません。
液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

お手入れ

スクリーン面の汚れは

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面にふれないようにしてください。また画面の汚れをふきとるときは、乾いた柔らかい布でふきとってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

外装の汚れは

- 乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布で拭きとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤をかけると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。

搬送時のご注意

- 本機を運ぶときは、本機に接続されているケーブル等をすべてはずしてください。
  落としたりするとけがや故障の原因となることがあります。
- 修理や引っ越しなどで本機を運ぶ場合は、お買い上げ時に本機が入っていた箱と、クッション材を使ってください。
- ディスプレイユニットを手で運ぶときは、図のように取っ手を持ってください。後面のカバーは外れやすいので、カバーのみを持たないでください。また回転して危険ですので、スタンドを持たないでください。

ワイヤレスについてのご注意

- 本機は盗聴防止機能を搭載していますが、傍受*にご注意ください。本機は無線通信を使用しているため、第三者が故意に傍受する可能性があります。機密を要する重要な通信または人命に関わる通信には使用しないでください。
  * 傍受とは、無線通信の内容を第三者が受信機で故意または偶然に受信することです。
- 本機を航空機、高精度電子機器の近くで使用すると、誤動作の原因となることがあります。これらの近くで使用しないでください。
- ワイヤレス電波状況により、映像、音声に乱れ（画面の一時停止、ブロックのノイズ、雑音）が発生することがあります。
  －電波の通りにくい壁ごしでのワイヤレス送受信
  －冷蔵庫などの大型・金属製の家具、器具などの影にある場合
  －ホームパーティなどでの人ごみ
- ワイヤレス通信が開始し、本機のシステムが起動するために約15秒必要です。この間はメディアレシーバー側の制御はできません。
- 本機はメディアレシーバーとディスプレイユニットの間のワイヤレス通信でMPEG-2方式の圧縮伸張方式を用いています。このため、ディスプレイユニットの受信映像、音声はメディアレシーバーへの入力映像、音声に比べ遅延が生じます（約0.5秒）。また、リモコンによる機器操作でも反応の遅れが発生しますのでご注意ください。

次のページにつづく

使用上のご注意（つづき）

- メディアレシーバーをAVラックなどに収納して使用する場合には、付属の外部アンテナを使用してください。AVラックの影響による映像、音声の乱れを軽減できることがあります。
- 本機は国内安全規格（電気用品安全法）に基づいて製品化されていますが、まれに他の機器と干渉してノイズを発生することがあります。干渉がある場合は、他の機器との距離を離してください。
- 本機（メディアレシーバー）は冷却用ファンを備えています。周囲温度が約35℃で高速動作になります。この時にファンのノイズが聞き取れることがあります。
- 法律で禁止されている事項があります。
  この製品は、電波法38条の2第1項に基づく技術基準適合証明を受けた特定無線設備を使用しているため、ご利用に際しては下記に記載する使用条件を遵守してくださいますよう、お願いいたします。なお、使用上の注意に反した機器の利用に起因して電波法に抵触する問題が発生した場合、当社はいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
  －この製品による送信は、屋内でのみ可能です。
  －この製品は、日本国内でのみ使用可能です。
  －この製品（付属品を含む）の改造ならびに変更を行うことはできません。
  －この製品には付属品以外の外部アンテナを使用することはできません。

廃棄するときは

- **一般の廃棄物と一緒にしないでください。**
  ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。
- **本機の蛍光管の中には水銀が含まれています。廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。**

リモコン取り扱い上のご注意

- 落としたり、踏みつけたり、中に液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
- 直射日光が当たるところ、暖房機具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

乾電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

⚠警告

- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 充電しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

- ＋と－の向きを正しく入れる。
- 電池を使いきったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

保証書とアフターサービス

このテレビは日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。
本製品には盗聴防止機能があります。ディスプレイユニットとメディアレシーバーのシリアル番号（SER No.）が一致していないと正しくワイヤレス通信できません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。
それでも具合が悪いときはサービス窓口へ
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
修理のときは
修理が必要な場合は、シリアル番号（SER No.）が一致しているディスプレイユニットとメディアレシーバーの両方をお持ちください。
保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。
保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。
部品の保有期間について
当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。
部品の交換について
この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。
その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名：KLV-15WS1
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店 **TEL.**
お近くのサービスステーション **TEL.**

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

受信方式	NTSC方式
受信チャンネル	VHF 1〜12チャンネル UHF 13〜62チャンネル CATV C13〜C35（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要）
画面寸法	30.4×22.8cm、38.0cm （幅×高さ、対角）
LCD パネル	a Si TFTアクティブマトリックス
有効画素率	99.99%
表示画素数	水平　1024ドット 垂直　768ライン
使用スピーカー	4×7cm（楕円）
音声出力	実用最大 3W×2（JEITA）、4Ω

入出力端子

アンテナ端子	VHF/UHF、75Ω F型コネクター
ビデオ1、2入力端子	S1映像:4ピンミニDIN Y:1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負 C:0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω 映像:ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負 音声:ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上
ビデオ1出力端子	映像:ピンジャック、1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負 音声:ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上
AVマウス接続端子	（2）
外部アンテナ端子	付属外部アンテナ専用
コンポーネント入力端子	D1映像: Y:1Vp-p（0.3V負同期付き） C_B/C_R:±350mVp-p 入力インピーダンス 75Ω 音声:ピンジャック、2チャンネル、500mVrms、インピーダンス47kΩ以上
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック 負荷インピーダンス16Ω以上

無線部

準拠規格	IEEE802.11a
使用周波数帯	5.2GHz帯 （5.17、5.19、5.21、5.23GHzの4チャンネル）
データ転送速度	最大24Mbps
アクセス方式	CSMA/CA（Carrier Sense Multiple Access with Collision Avoidance）
アンテナ送信出力	最大10mW/MHz
最大通信距離	見通しで約50m（屋内） 一般家屋内で約15〜20m*1
WEP（データの暗号化）	128ビット
内部アンテナ	メディアレシーバー側：ダイエレクトリックアンテナ×2 ディスプレイユニット側：ダイポールアンテナ×2
アンテナ選択	ダイバシティ方式
外部アンテナ仕様	垂直偏波パラボラ、ケーブル長2m、質量130g（ケーブル含む）
アンテナの内部/外部の切り換え	コネクタを挿すことで自動切り換え

ディスプレイユニット LDM-15WS1

消費電力	54W（リモコン待機時 1.5W）
最大外形寸法	スタンド含む:39.0×41.7×17.2cm （幅×高さ×奥行き） スタンドなし:39.0×38.7×7.9cm
質量	約5.2kg（スタンド含む） 約4.5kg（スタンドなし）
電源	使用電源:AC100V、50/60Hz

メディアレシーバー部 MBT-15WS1

消費電力	14W（ACパワーアダプター使用時） （リモコン待機時 3W）
最大外形寸法（突起部を除く）	縦置き　8.5×23.2×26cm （幅×高さ×奥行き） 横置き21.5×4.8×26cm （幅×高さ×奥行き）
質量	約1.0kg（スタンド含む） 約0.95kg（スタンドなし）
電源	使用電源:AC100V、50/60Hz （ACパワーアダプター使用） 入力電源:DC10.5V （ACパワーアダプター使用）
付属品	外部アンテナ（1） 外部アンテナ壁取付金具（1） 壁取付金具用ネジ（2） リモートコマンダー　RM-9241J（1） 乾電池　単4形（2） アンテナ接続ケーブル（1） アンテナ変換アダプター（1） 電源コード（2） ACパワーアダプター（1） AVマウス（2） 取扱説明書（1） 安全のために（1） 安全点検チェックリスト（1） ソニーご相談窓口のご案内（1） 保証書（1）

別売りアクセサリー

液晶テレビ用壁取付金具　SU-W110
ステレオヘッドホン　MDR-AV305*2など
接続ケーブルなど

*1 通信できる範囲は、壁の材質など周囲の環境により異なります。
*2 2003年4月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

- 本機は日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語集

五十音順

ア行

インターレース（飛び越し走査）

走査線525本のうち、まず奇数番目の走査線（262.5本）を1/60秒かけて描き（この1画面を1フィールドという）、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線（262.5本）を描き、合わせて走査線525本の1枚の完全な画面（フレーム）を作っていく飛び越し走査のことです。

カ行

ケーブルテレビ（CATV）

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。通常のテレビ番組やBS放送に加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

タ行

チューナー

電波を受信して各チャンネルに合わせるための機器です。本機はメディアレシーバー側にテレビチューナーを内蔵しています。

デジタルCS放送

通信衛星を使ったCS放送の一種です。従来のアナログCS放送とは違い、映像や音声をデジタル化することで、大量の情報を扱えます。これにより、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。

ハ行

ビスタビジョン

画面の横縦比が1.85:1になっている映像ソフトのことです。一般的には画像の中に字幕が入る映画などに使われています。

プログレッシブ（順次走査）

飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、1フレーム目で525本全部の走査線を順番どおりに描き、次のフレームも同じ場所を525本全部の走査線で描いていく順次走査のことです。

数字・アルファベット順

BSデジタル放送

2000年12月から本放送が開始された放送衛星を使って、デジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送、CD並みの高音質なラジオ放送などがあります。
BSデジタル放送を受信するには、別途BSデジタルチューナーが必要となります。

bps

1秒間に送受信できるデータ量（ビット数）を表す単位です。インターネットや無線などの通信速度を表すとき、bps（ビット・パー・セカンド＝ビット／秒）を使います。

D端子

デジタルCS放送、BSデジタル放送およびDVDプレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。デジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。
D端子には対応する信号フォーマットによって、次の種類があります。
本機にはD1入力端子が付いてます。

- D1端子 : 525i（480i）の信号に対応
- D2端子 : 525i（480i）と525p（480p）の信号に対応
- D3端子 : 525i（480i）と 525p（480p）、1125i（1080i）の信号に対応
- D4端子 : 525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の信号に対応

iはインターレース、pはプログレッシブの略です。
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

ID-1方式（ビデオID-1システム）

ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名前です。本機はID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオデッキなどを、テレビのビデオ入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

IEEE（Institute of Electrical and Electronics Engineers）

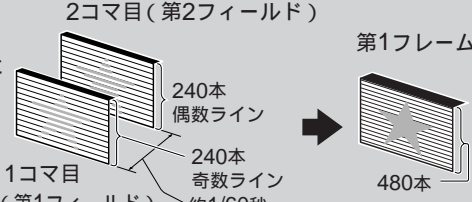
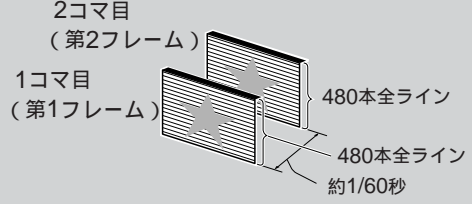
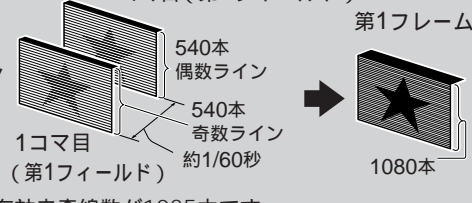
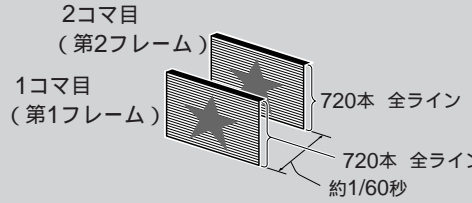
アメリカ電気・電子技術者協会のことです。1884年に設立された世界的な電気／電子／情報分野の学会で電気および電子技術に関する標準化組織でもあります。

IEEE802.11a

IEEEで制定された無線規格の一つです。周波数帯域は5GHz帯で、伝送速度は最大54Mbpsです。

IEEE802.11b

IEEEで制定された無線規格の一つです。周波数帯域は2.4GHz帯を使用し、伝送速度最高で11Mbpsです。電子レンジやBluetoothなども同じ周波数帯域を使用しています。

MPEG-2（Moving Picture Experts Group phase 2）

映像データの圧縮方式の一つで、MPEG規格の一部です。再生時に動画と音声合わせて4Mbps～15Mbps程度のデータ転送速度が必要です。DVD-Videoなどのデジタル機器で利用されています。

NTSC方式

日本やアメリカなどで使われているカラーテレビ方式で、毎秒30コマ、水平走査線数525本などが特長です。アメリカの連邦テレビジョン方式委員会（National Television System Committee）が制定し、1954年に放送が正式に開始されました。欧州や中国などで使われているPAL方式やSECAM方式とは互換性がありません。

映像信号フォーマットについて

日本国内の映像信号フォーマット（画像方式）は、走査線数と走査方式によって、以下の4種類があります。

映像信号フォーマット	映像の種類	対応するD端子
525i（480i） 525本（480本）の走査線を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式）映像信号です。通常のテレビ放送（VHF/UHF）の信号です。 2コマ目（第2フィールド） 240本 偶数ライン 1コマ目（第1フィールド） 240本 奇数ライン 約1/60秒 第1フレーム 480本	• 通常のテレビ放送（VHF/UHF） • ビデオ入力の映像 • コンポーネント入力の以下の映像 – BSデジタル標準テレビ放送（525i） – デジタルCS放送 – DVDプレーヤーの映像	D1端子 D2端子 D3端子 D4端子
525p（480p） 525本（480本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式）映像信号です。 2コマ目（第2フレーム） 1コマ目（第1フレーム） 480本全ライン 480本全ライン 約1/60秒	• コンポーネント入力のBSデジタル標準テレビ放送（525p） • コンポーネント入力のDVDプレーヤーの映像（プログレッシブ出力映像）	D2端子 D3端子 D4端子
1125i（1080i） 1125本（1080本）の走査線を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式）映像信号です。 2コマ目（第2フィールド） 540本 偶数ライン 1コマ目（第1フィールド） 540本 奇数ライン 約1/60秒 第1フレーム 1080本 現行のハイビジョン放送は、有効走査線数が1035本です。	• コンポーネント入力のBSデジタルハイビジョン放送（1125i） • コンポーネント入力の従来ハイビジョン機器の映像（ベースバンド）	D3端子 D4端子
750p（720p） 750本（720本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式）映像信号です。 2コマ目（第2フレーム） 1コマ目（第1フレーム） 720本 全ライン 720本 全ライン 約1/60秒	• コンポーネント入力のBSデジタルハイビジョン放送（750p）	D4端子

⬆（　）内は有効走査線数で数えたときの別称です。また、iはインターレース（飛び越し走査）、pはプログレッシブ（順次走査）の略。

⬆つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。特に、BSデジタルチューナーの出力設定については、BSデジタルチューナー側の取扱説明書をご覧ください。

* コンポーネント入力はD端子からの映像です。

走査線・有効走査線数

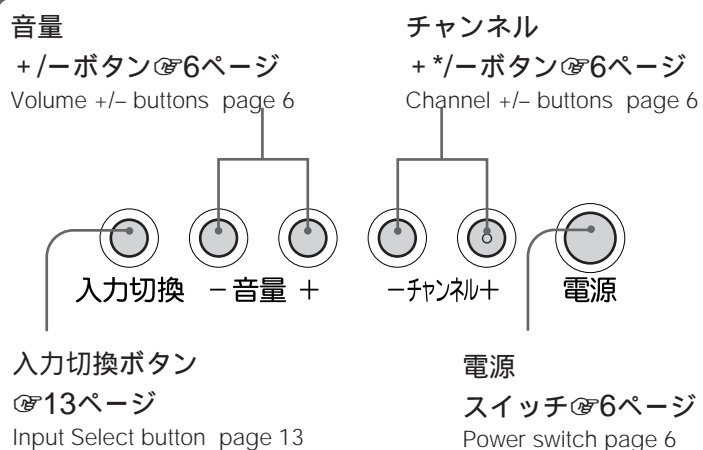
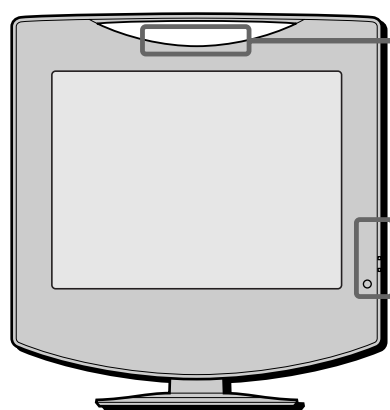
テレビ映像の動画は1秒間に60枚の静止画を連続して表示することにより再現します。それぞれの静止画は多数の線の集合としての面として描かれており、この線のことを走査線と呼びます。走査線の数は映像信号フォーマットごとに決まっており、走査線の数が多いほどきめ細かい高精細な映像と言えます。通常のテレビ放送の走査線数は525本、ハイビジョン放送では1125本となっています。

この走査線の中には映像信号のほかにさまざまな識別制御信号なども含まれており、全走査線数中の映像信号の走査線数を有効走査線数と呼びます。通常のテレビ放送の有効走査線数は480本、従来のハイビジョンでは1035本、デジタルハイビジョンでは1080本となっています。
この液晶テレビは、固定ピクセルデバイスを採用しており、テレビが表示する走査線数はパネルによって固定的に決められています。

D端子（コンポーネント入力）

デジタルCS放送、BSデジタル放送およびDVDプレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。デジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。
本機にはD1入力端子（コンポーネント入力）が付いてます。

各部の名前/
Identifying parts and controls

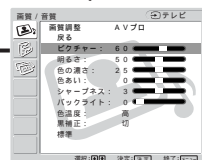
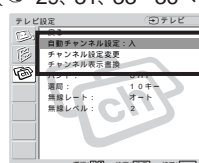
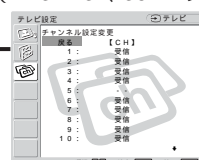
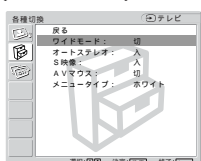
前面/Front Panel

ちょっと一言
チャンネル＋ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

リモコン/Remote Control

ちょっと一言

* 二重音声ボタンとチャンネル数字の「5」ボタンおよびチャンネル＋ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

メニュー一覧

「各種切換」の「メニュータイプ」でメニュー画面の背景色を切り換えられます。メニュー画面には「ホワイト」と「ブラック」があります。

各種切換
（☞ 12ページ）

- メニューはリモコンのメニューボタンを押すと表示され、⇧/⇩/⇦/⇨で選び、決定ボタンまたは⇨で決定します。ただし、⇨で決定できないメニューもありますのでご注意ください。
- 黄色で表示される部分が選ばれています。
- 薄く表示される部分は選べません。

索引

五十音順

数字・アルファベット順

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

ホームページ　● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

「ソニードライブ」は、ソニーの商品情報とライフスタイルをご提案するホームページです。
「良くあるご質問」「修理情報」「ショッピング情報」は、ホームページをご活用ください。

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル*…………………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は*……… 03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX……………………………… 0466-31-2595

受付時間：月～金曜日 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00

*お電話は自動音声応答にてお受けし，内容に応じて専門の相談員が対応します。
はじめにご用件を下記より、次に音声案内にそって商品カテゴリーの番号を押してください。
選択番号は変更になることがありますので、ご容赦願います。
1：修理受付
2：使用方法や故障と思われるご相談
3：お買物相談
4：業務用・プロ用商品に関するご相談全般
5：その他のご相談

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川 6-7-35

この説明書は100%古紙再生紙とVOC
（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキ
を使用しています。

Printed in Japan